



79  
4315  
1



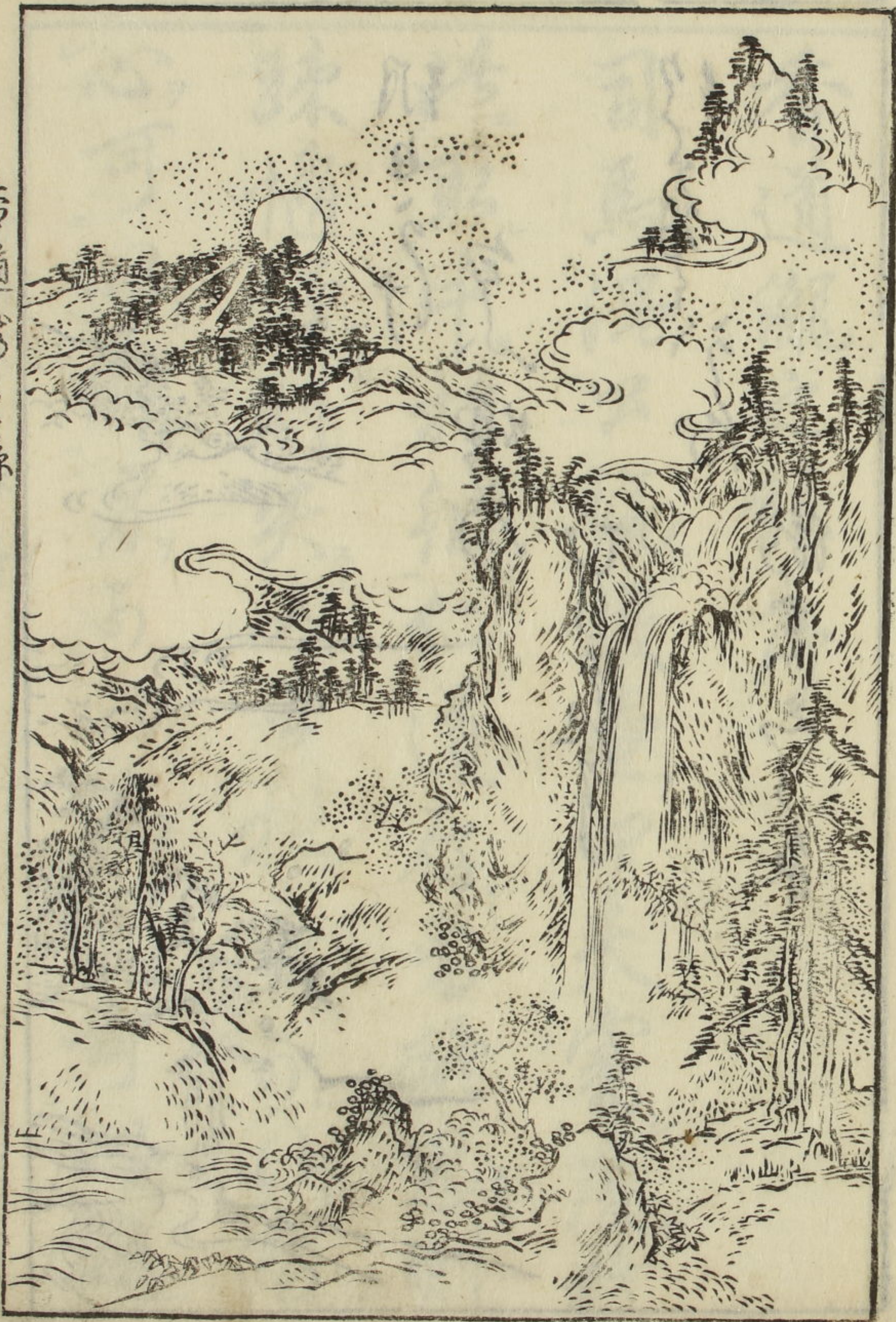


大枝流芳編輯

香道龍之錄

皇都

書舖植村玉枝軒梓行



香道流之錄





明月之

白煙乃

しきり

ゆるゆる

漸若

香道瀧之縁序

司馬温公編投壺曰夫審度於

此取中於彼仁道存焉矜思則

疎慥慢則失矣云投壺所以治

心可以脩身可以為國可以觀

香道瀧之縁序



人矣燒香是清事故自貴介公  
子以卡雅人隱逸之徒古今愛  
之尤於

吾國翫之尚矣不惟薰之而已  
又立闢之法以辨其同種異品

考其闢之中而較優劣宜  
勝負聞之者身其心非精一而  
散亂分不中必矣此哉身之法  
疑思慥慥之士何清精當能修  
法事治心脩身為國親人望者

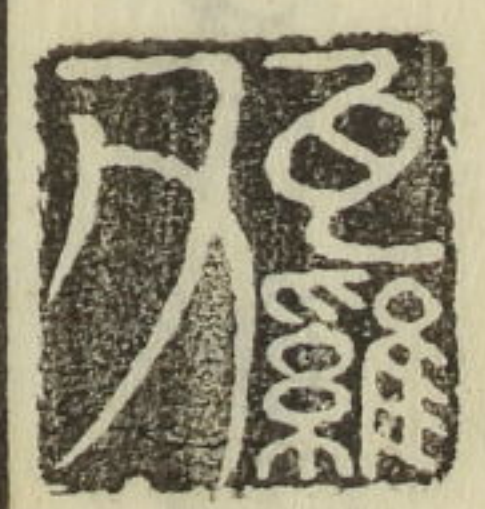
善道然之錄序

二



投壺身故以彼論之或曰見流芳  
 子淡此事終託之以令冠序爾  
 省享保嘆且歲吾夏下院

西山瓦鷄居士題



香道流之錄

上之卷目錄

- 一 兼川流香道具之圖式
- 一 同流十組香包紙之圖式
- 一 盤立物寸法之圖式
- 一 源氏香之圖 并三炷香之備
- 一 下之卷目錄
- 一 右組香十品 名所香

競馬香

香道流之錄目錄



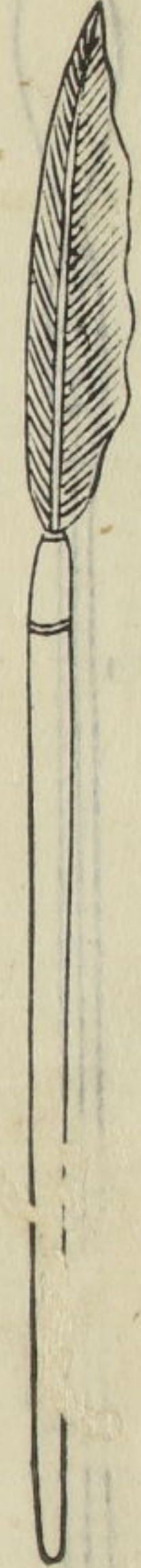






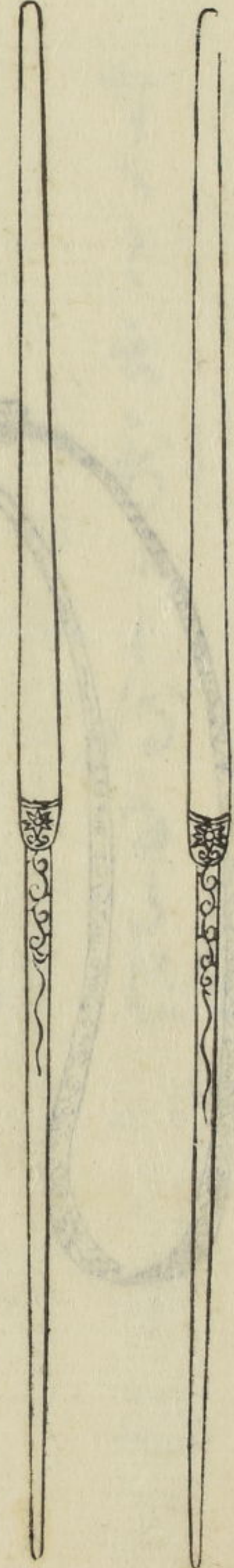


香羽帚柄二寸九分羽長一寸五分計



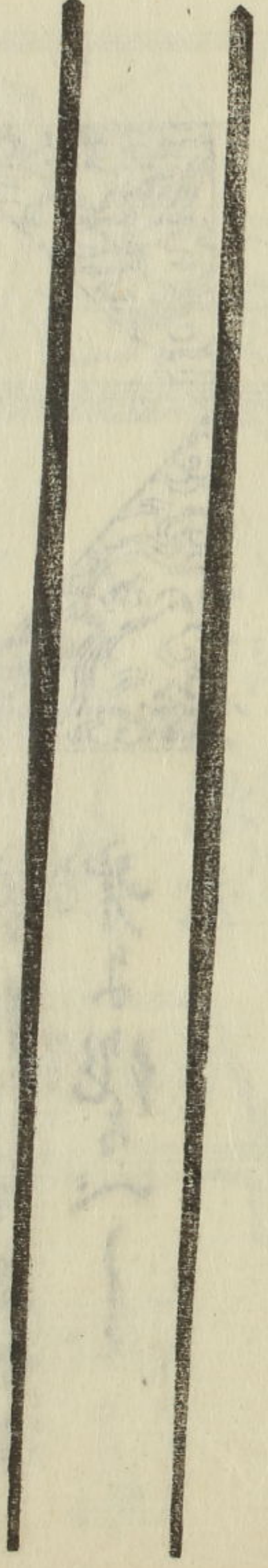
火筋み五寸七分半

柄柄三寸一分半  
二寸六分



香筋香筋五寸七分

紫檀紫檀或ハ黒檀黒檀にて作る

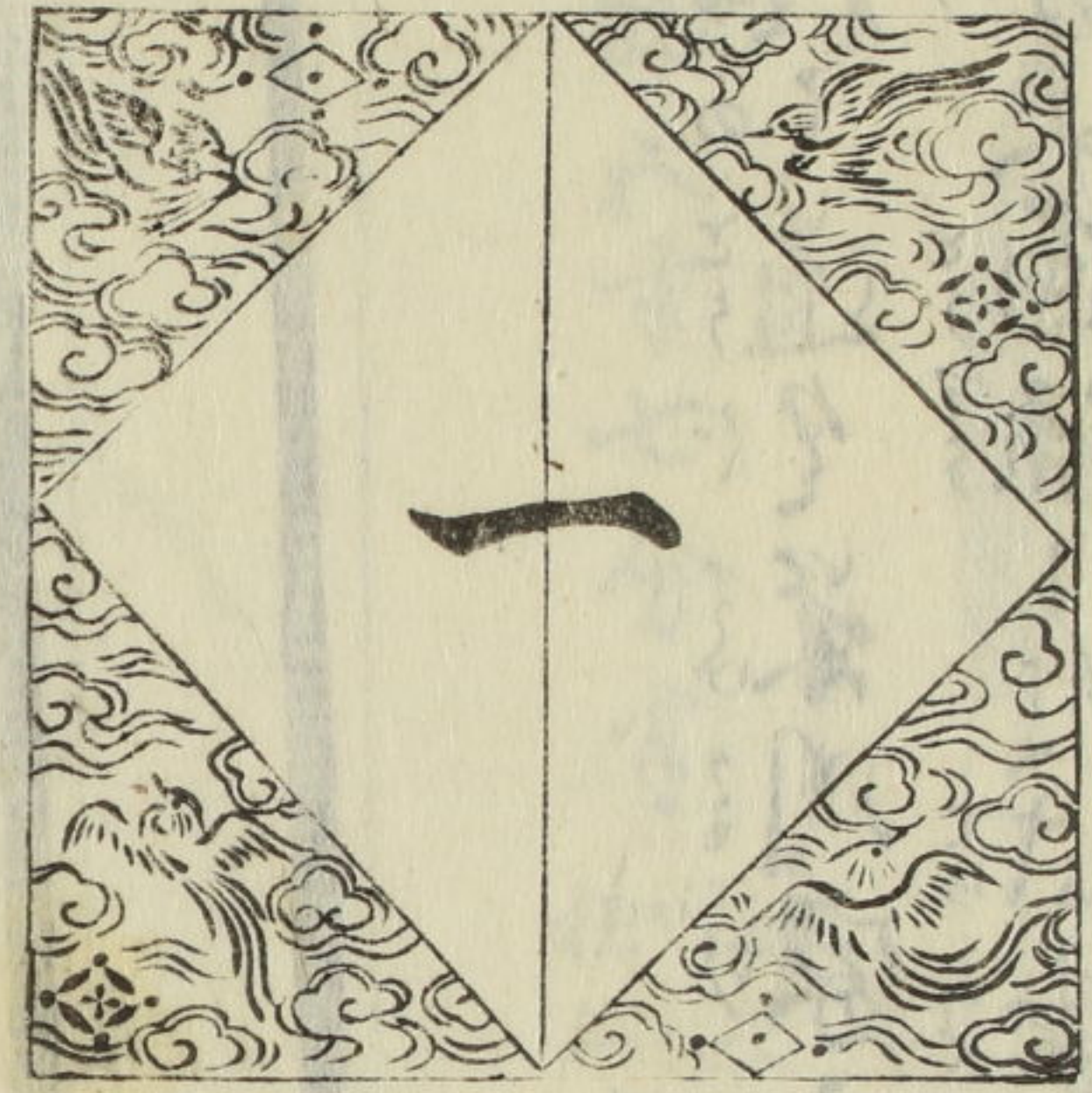


右七種七種の道道を米川家米川家にて七つ乃七つ乃るると云なり  
志野家志野家又當流當流ははけ事事安安當流當流ののるるを  
先先り著著と秋秋の光光よよああくく辨辨一一ゆゆりりけけ外外よ  
火火紅筋紅筋香香刻刻ハハああききとともも牧牧琴琴ととるるにに違違わわるるに

香道香道流流之之線線上上

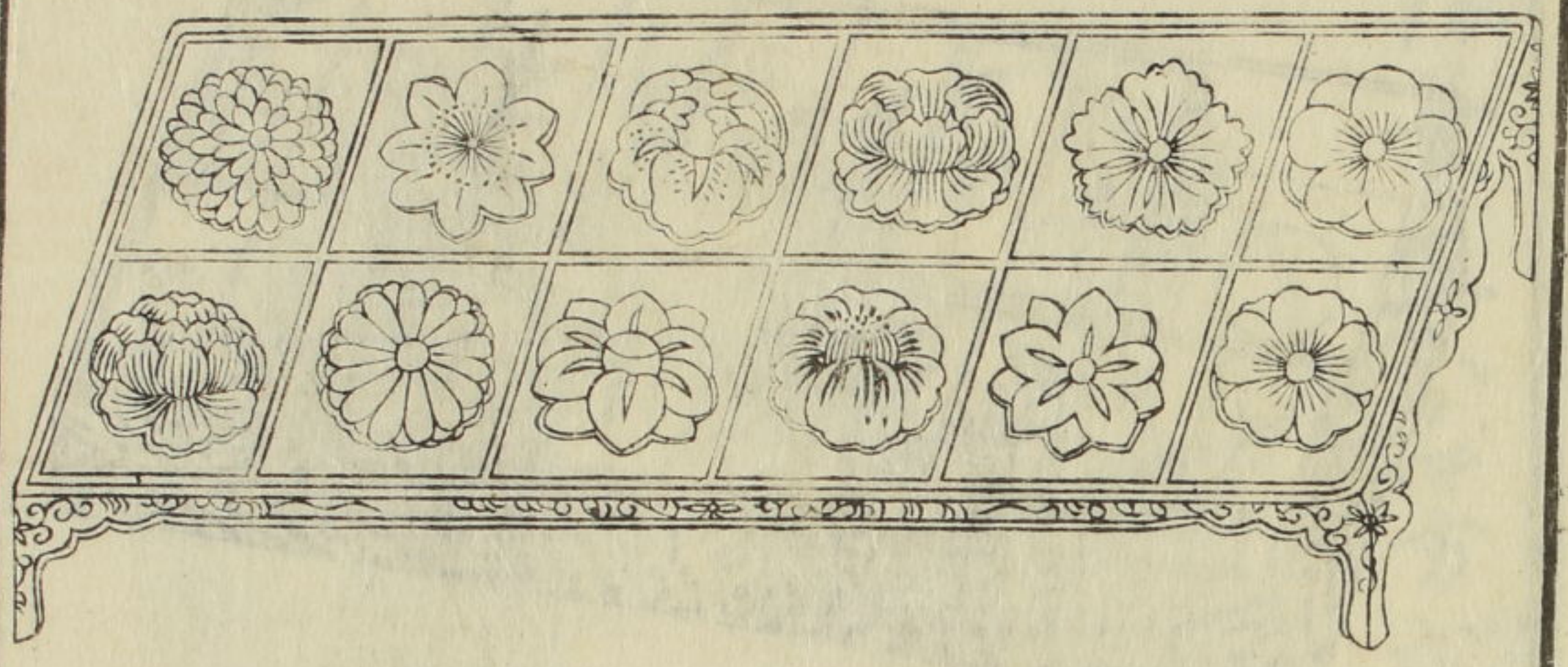


折居

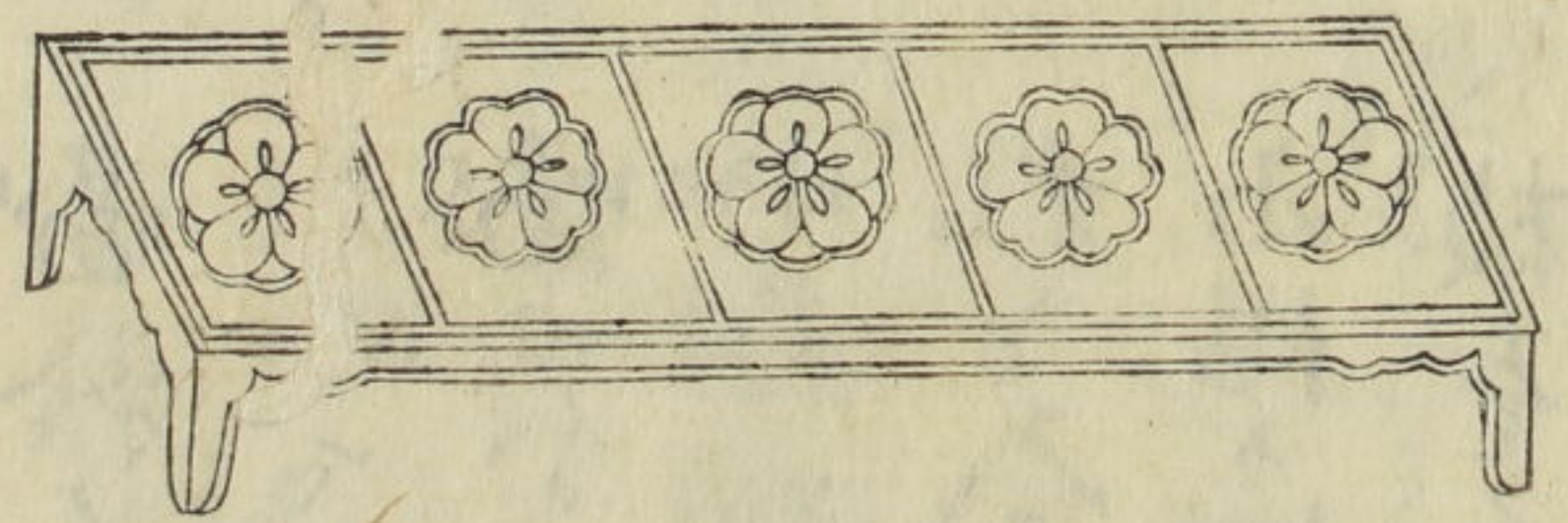


二寸五分四方一  
 十まであり  
 表絹裏金銀の  
 箔紙と用物好次  
 才も作るべし

香道流之練上

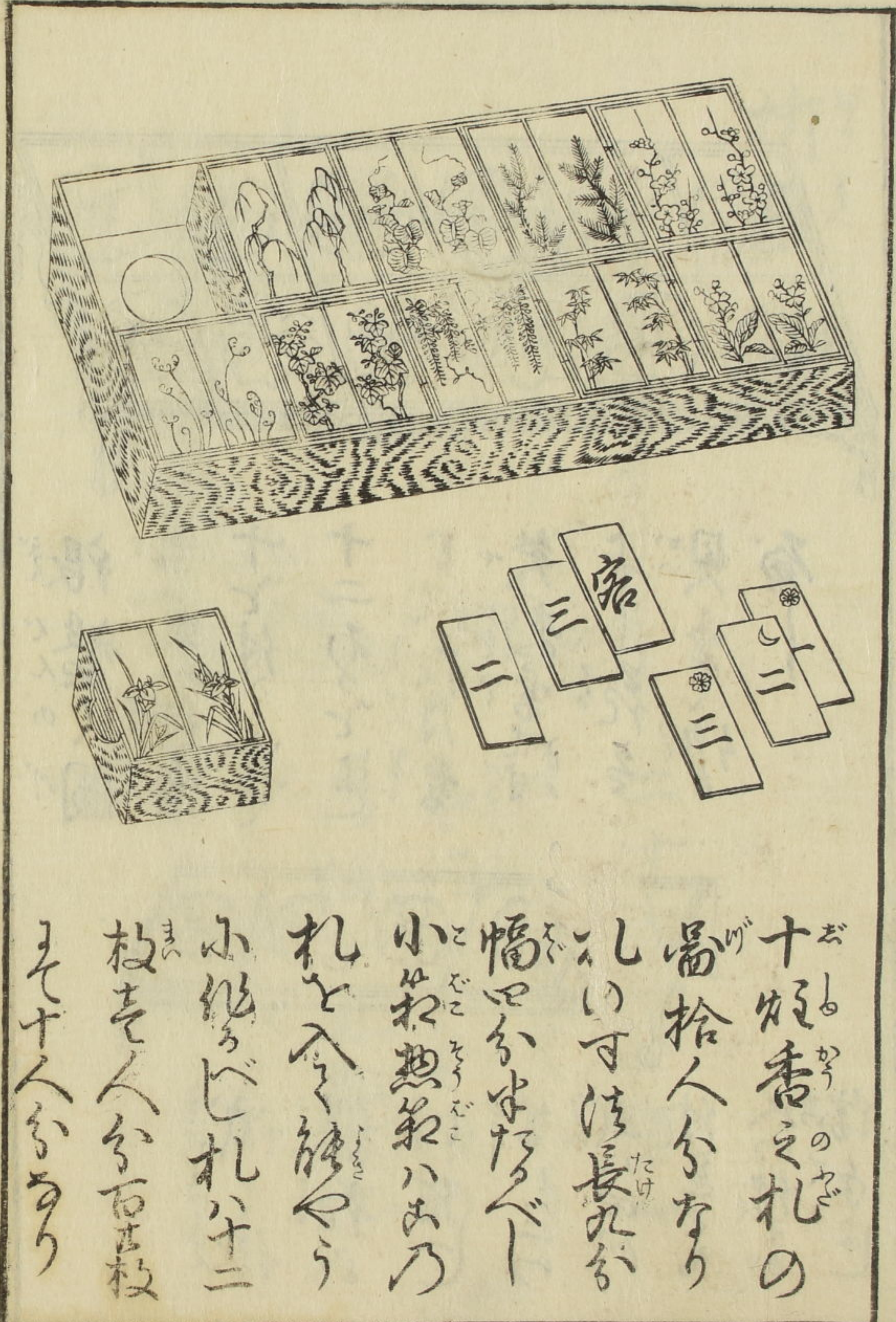


銀盤之圖  
 右来の銀盤  
 十と付るとは  
 十二ありとは  
 どの花月香  
 矢数香の時  
 よし花を  
 貝みて作ら  
 ぬし

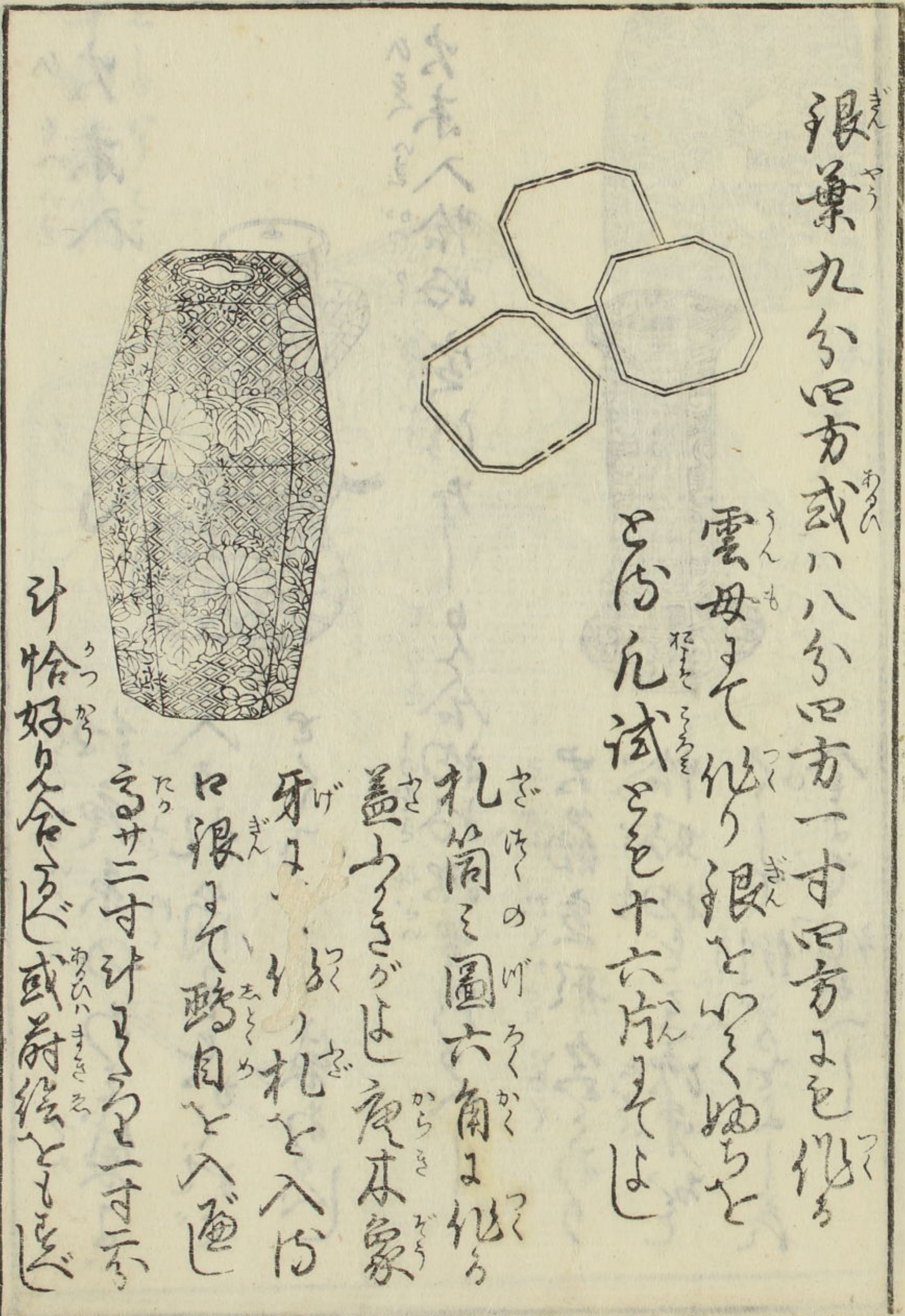


試く銀  
 盤花の  
 川付じ  
 若ハ二つ  
 或ハ四つ  
 付るども  
 又の付るが  
 緒をばし





おぼろ香之札の  
 番拾人分なり  
 しの寸法長九分  
 幅四分半たぐ一  
 小箱惣箱ハぬ乃  
 札と令能やう  
 小箱はじ札ハ十二  
 枚を人分百枚  
 五千人分あり



浪葉九分四方或ハ八分四方一寸四方より他  
 雲母まで他り浪と心くゆらと  
 と心凡試とを十六片をよは  
 札筒と圖六角より他  
 蓋少くもがは夜本象  
 牙は、り札と入内  
 口浪まで鷗目と入内  
 高サ二寸計より一寸五分  
 計恰好り合ふに或前後とも是

香道流之線上

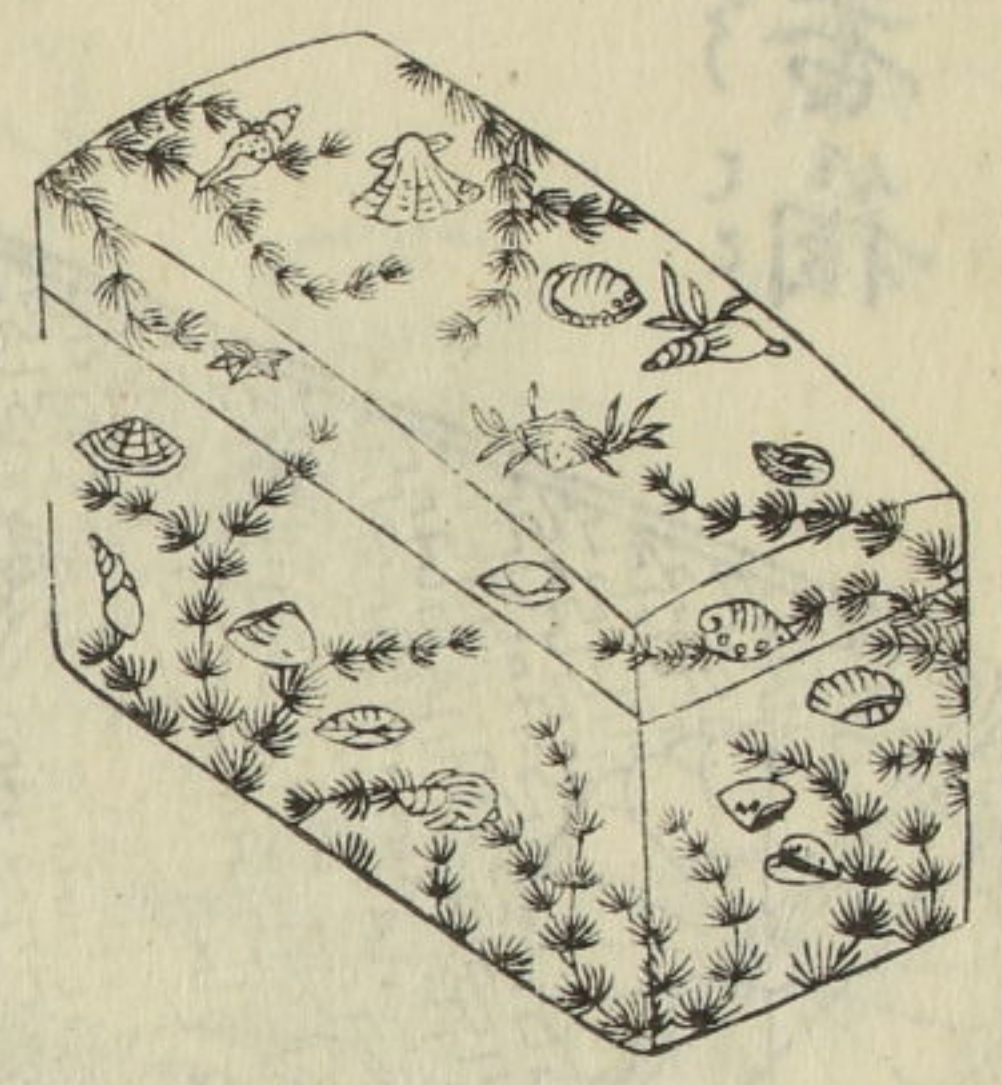
又







炭団入中よかけで  
あり深墨を入る



香道具此数多しとひとを先わし海一の要具かく  
のびし香の香る秋と光續編よのせてあきと秋し  
ゆる香煙火丸など此圖の香道秘傳よわきばと愛  
よもしぬ香煙の磁蓋よし志野家よハ凡三寸

四方此ものを用兼川もあきにと同一流  
事ハ別よ候あり古來用ひ其る箱の寸法定  
むる式なり唯利ゆりに務ましく恰好人の好  
法ハ他を備しを法二種は他をその用よ  
し外は袋あるべし長法をけくる寸法よむ  
まびやうなぐ口傳ありその外に小道も  
まか袋あるべしせよ長法とけくるさゆくひと  
むらもゆよふあり古き具乃櫛栴合栴など  
ひきし類のもの紙香見よ用る事あぶるに

香道影之線上

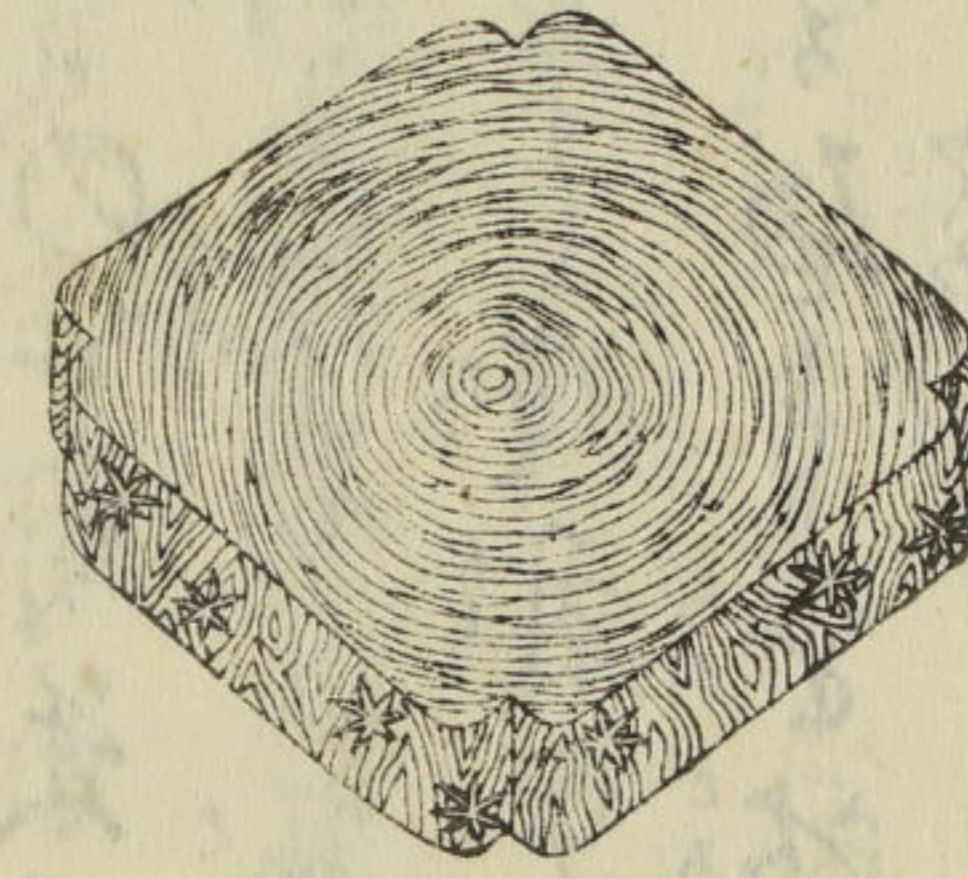


香割

香割盤

双き寸九分

柄二寸五分



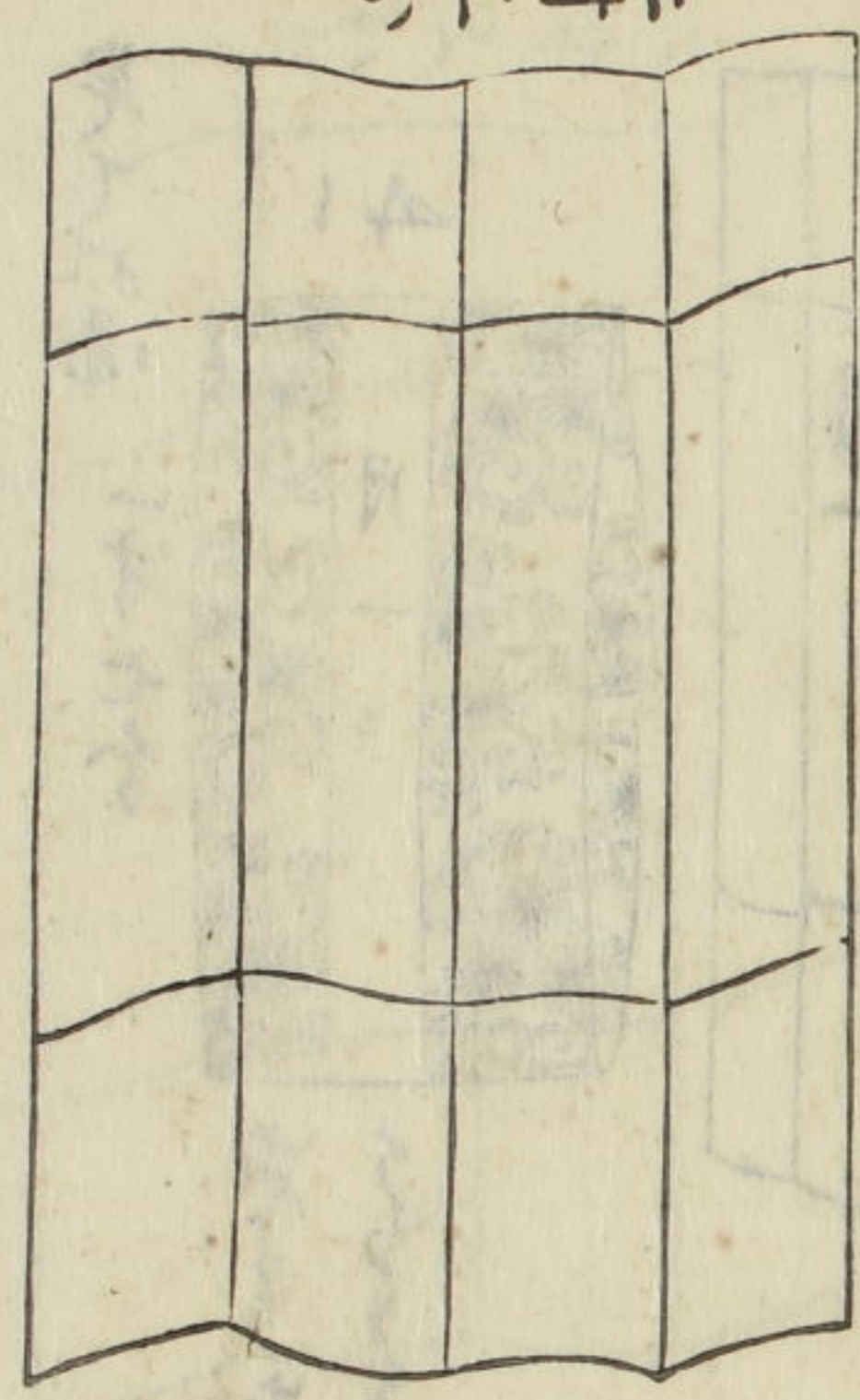
鞘わり柄とも  
 又鳥木よて  
 竹も米川氏此  
 好よ竹長力の  
 形よ竹るべー

からま  
 度本と竹  
 竹る本を  
 角一丸形  
 竹るまに  
 寸法定まる  
 法かー

刻すての番



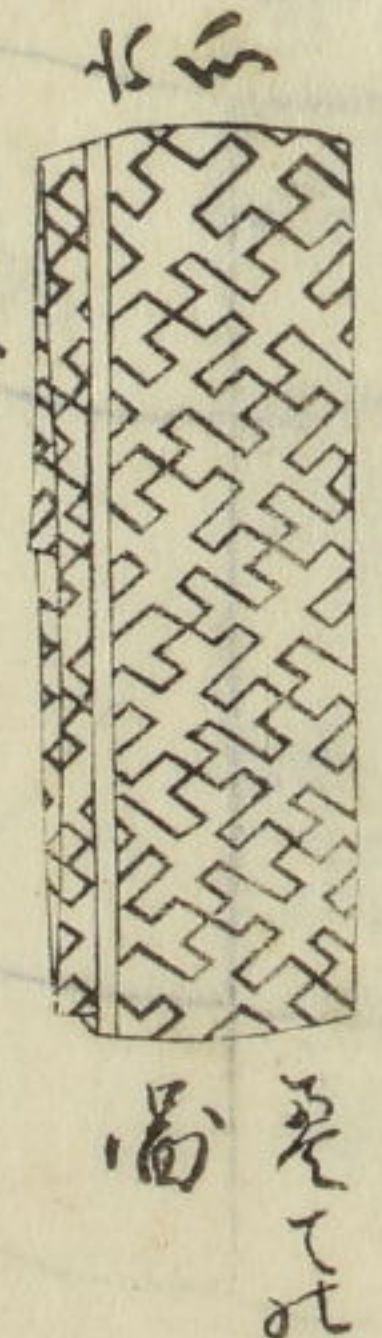
○米川流十紐香色紙圖式  
 十紐香色紙圖式  
 一寸七分



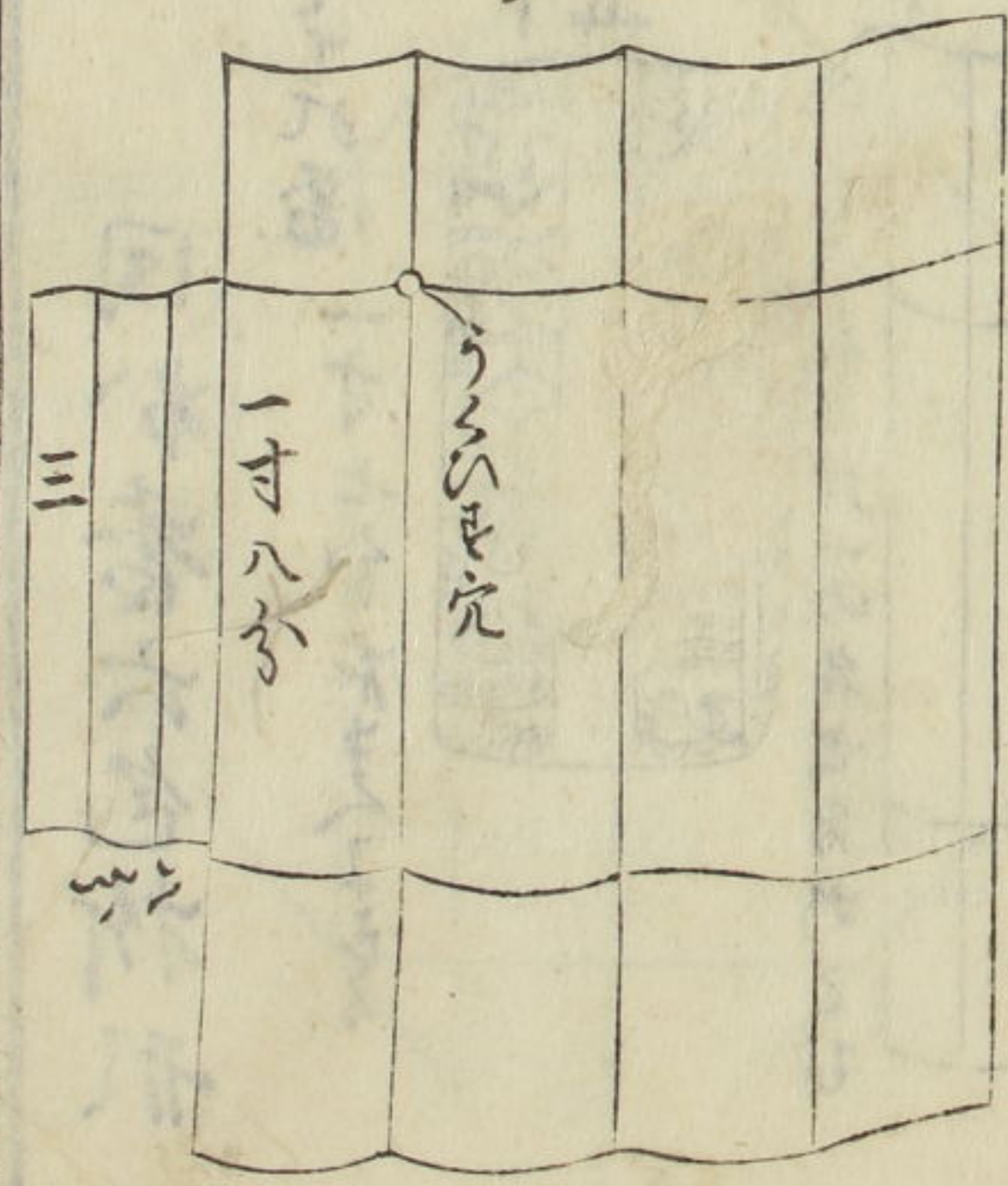
三寸八分

香道流之線上

刻すての番



同か香十包  
 一寸八分



一寸八分

三

八

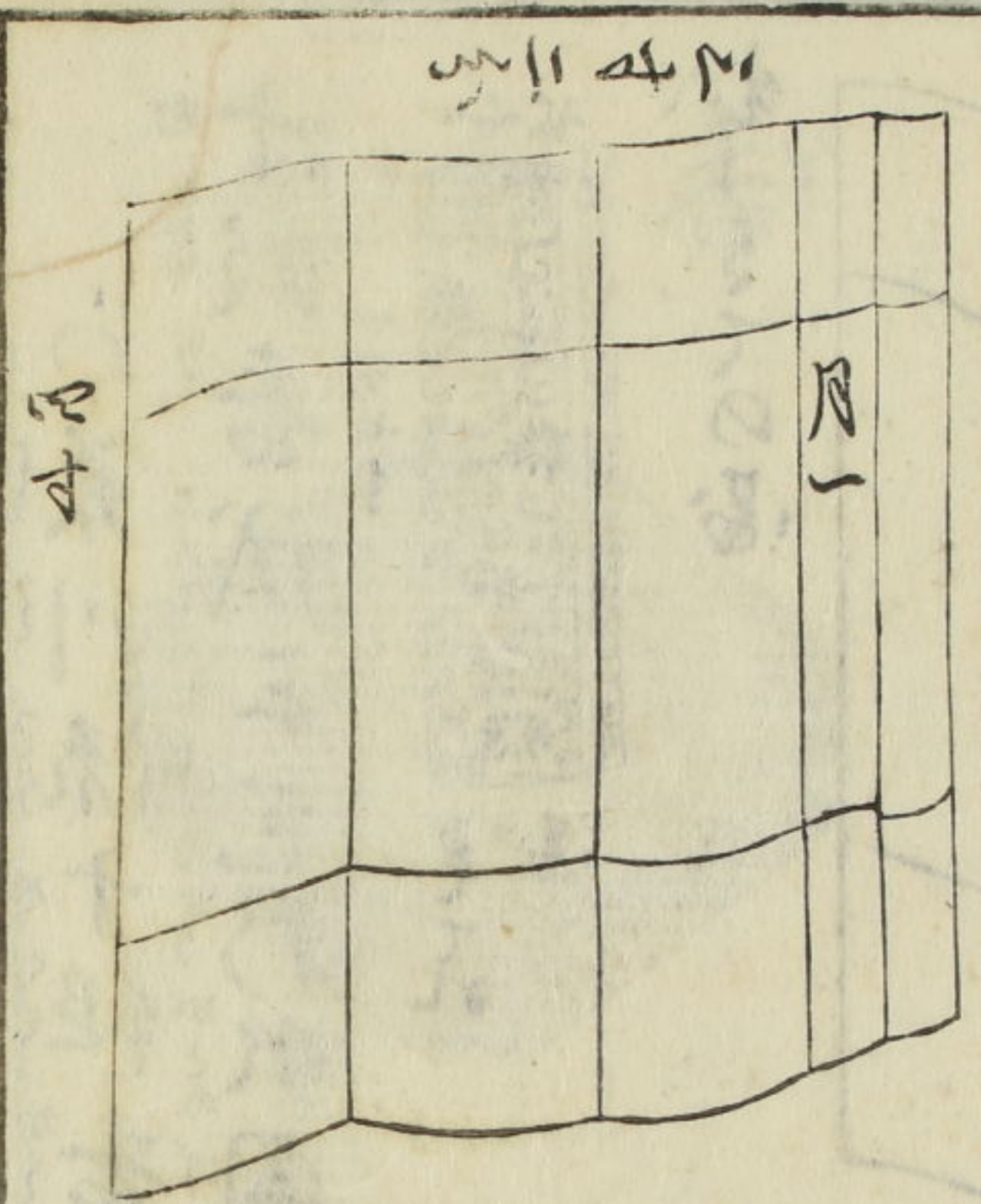


花月香紙六色折形

是て此端 一寸七分



右よりた、  
うらうら



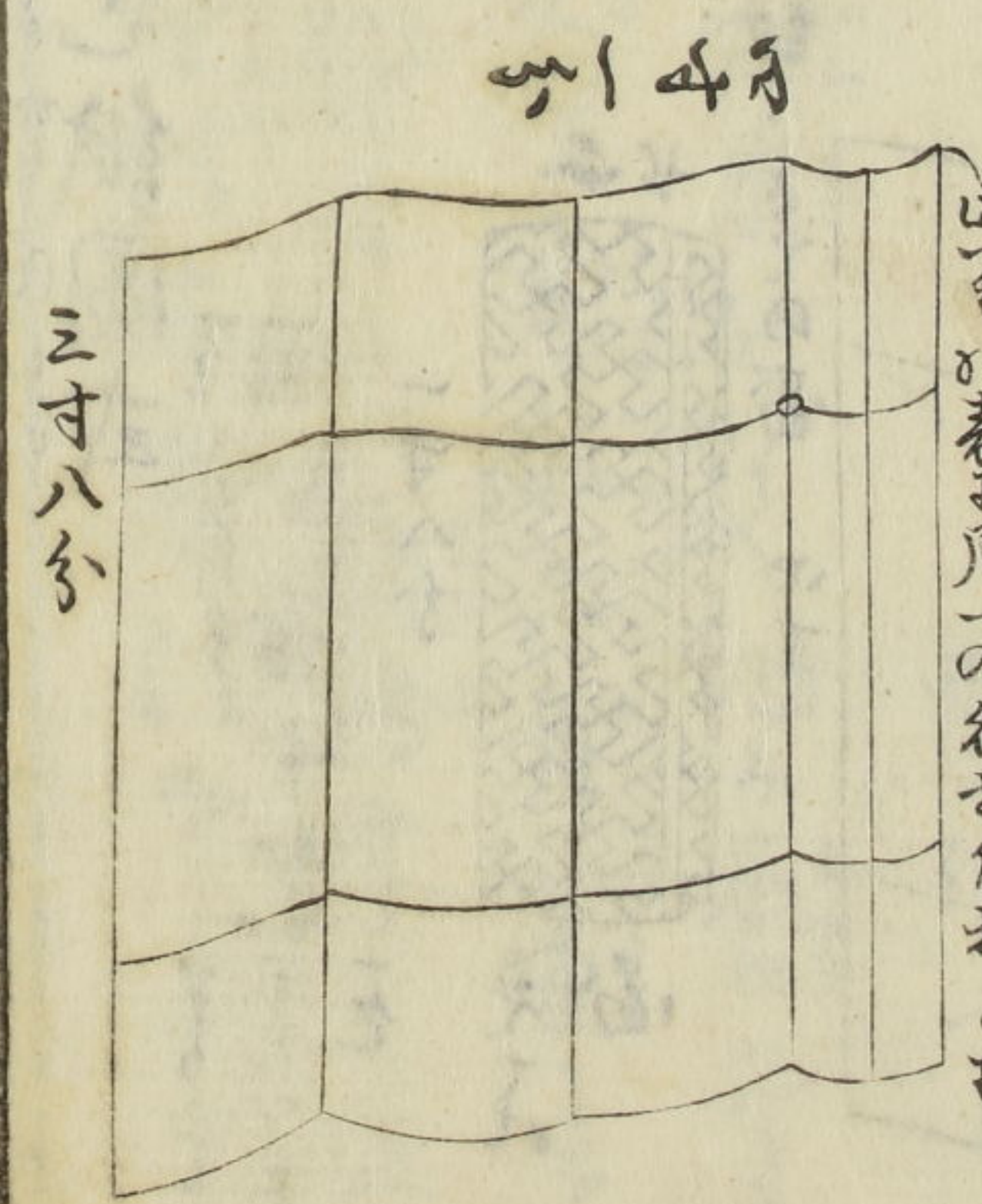
四寸

同か香六色折形

是て此端 一寸七分 右よりた、



はつと表は月一の名を角折こむ



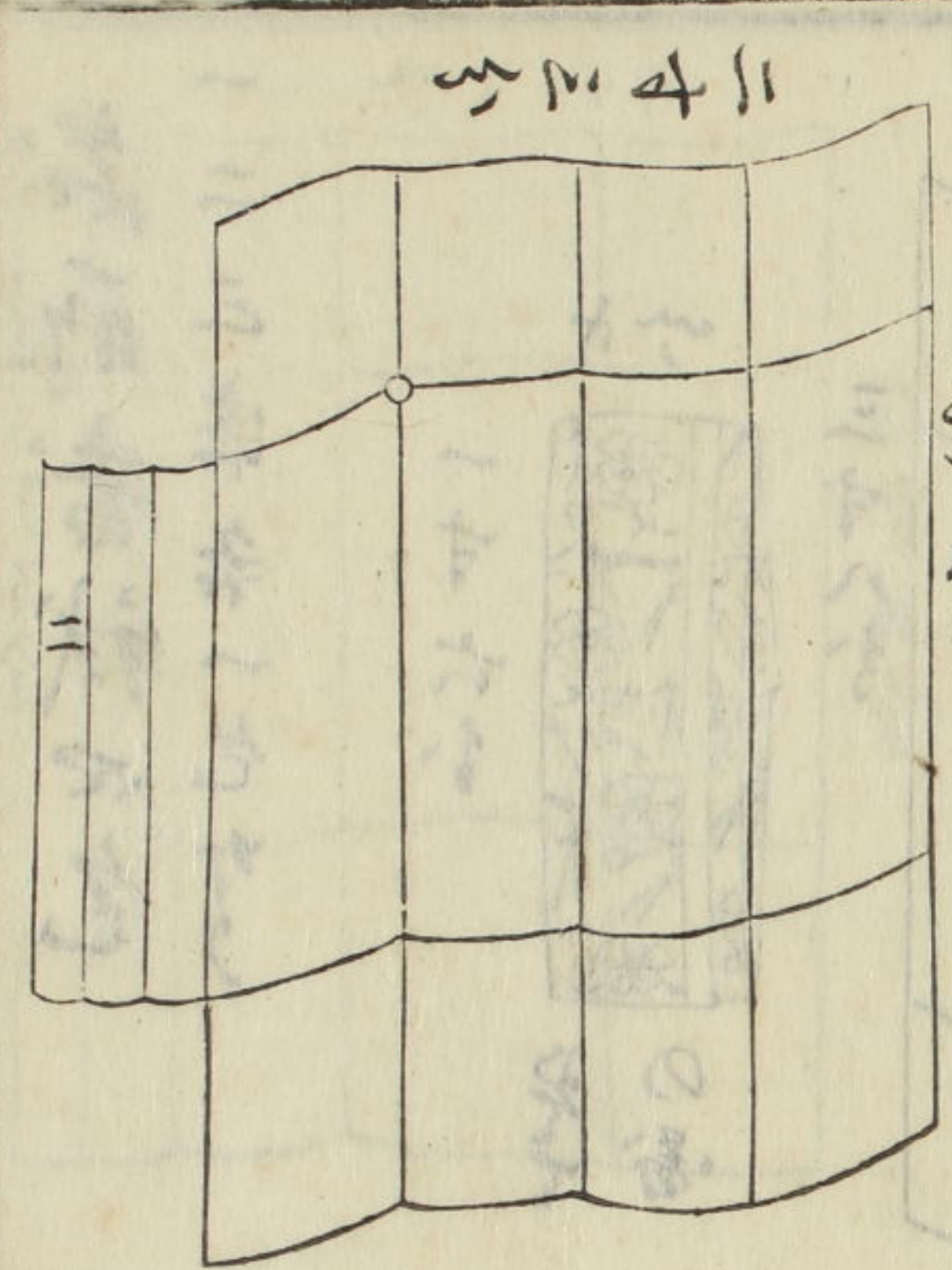
三寸八分

小鳥香十色紙

是て此端 一寸七分



是て  
の端



三寸八分

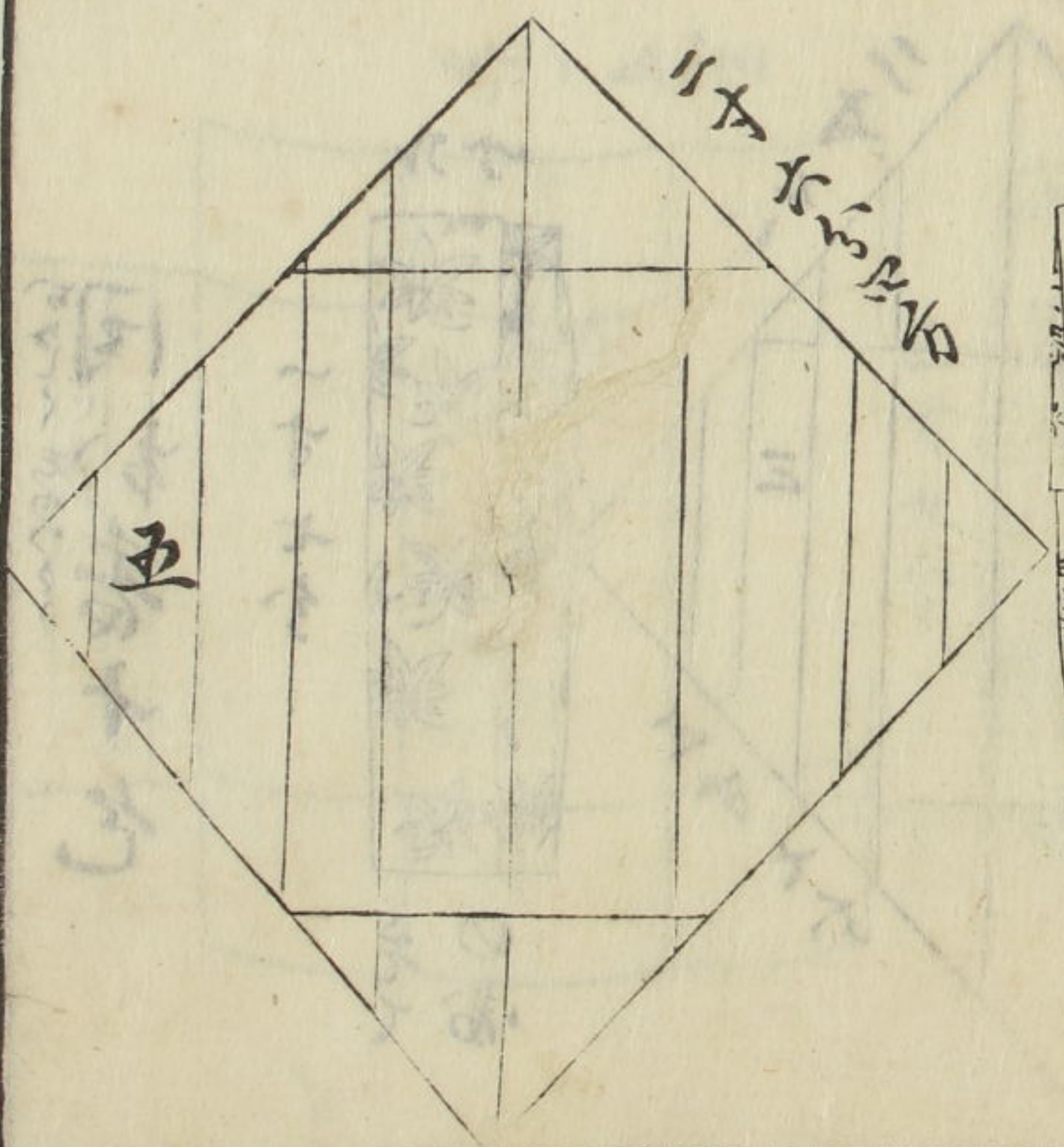
香道漸之線上

源氏香木色紙

是て此端 一寸六分



是て  
の端

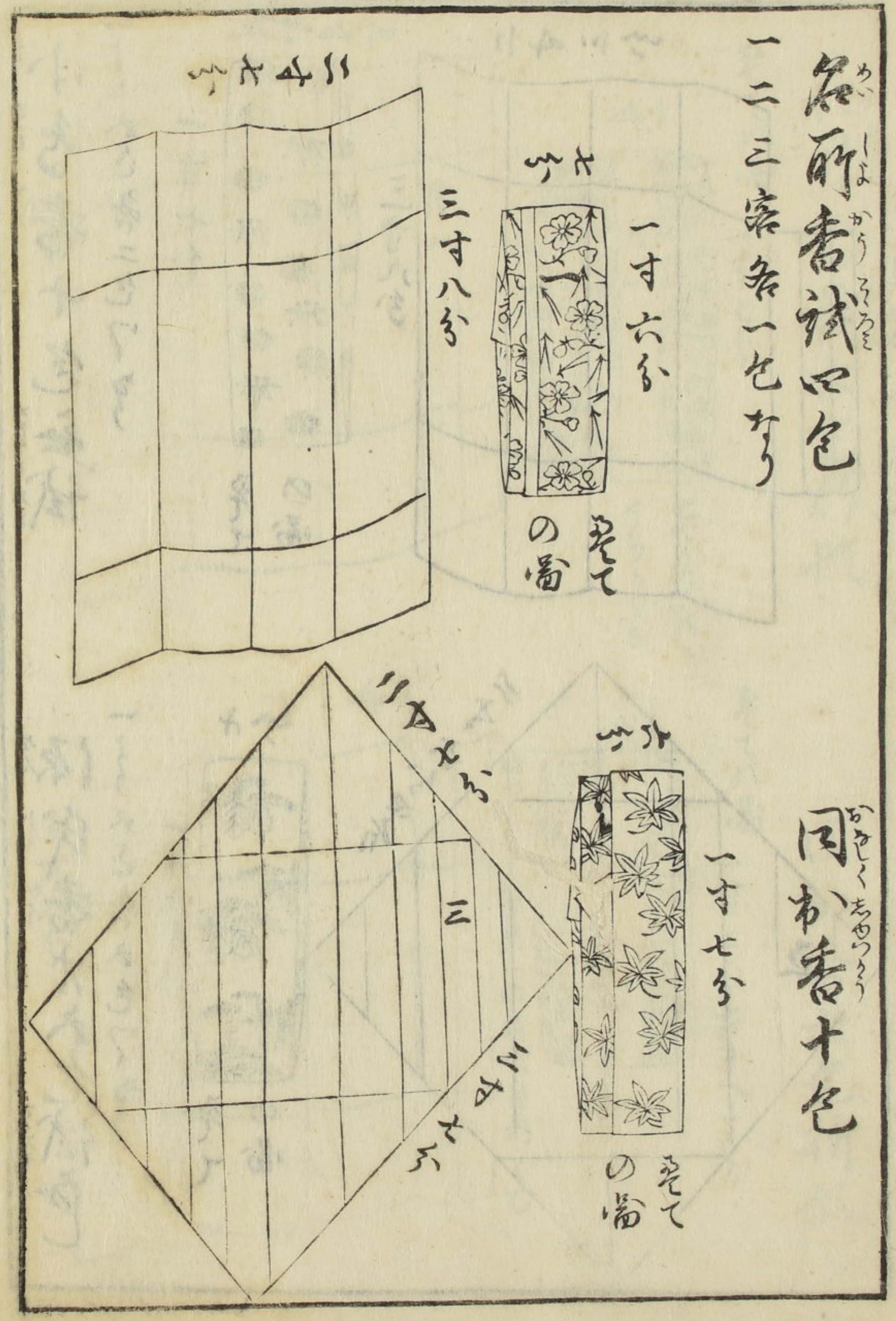


五

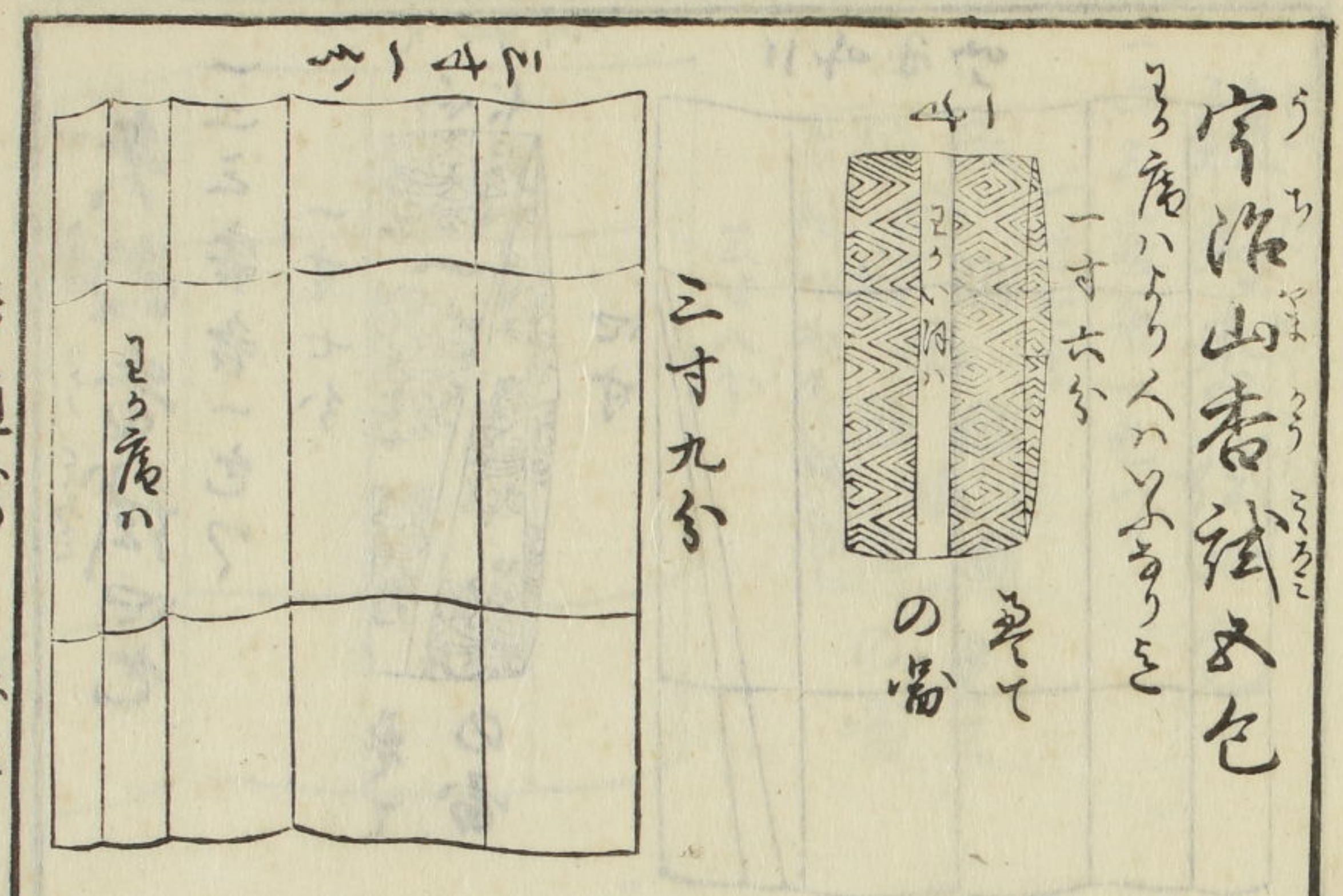
九



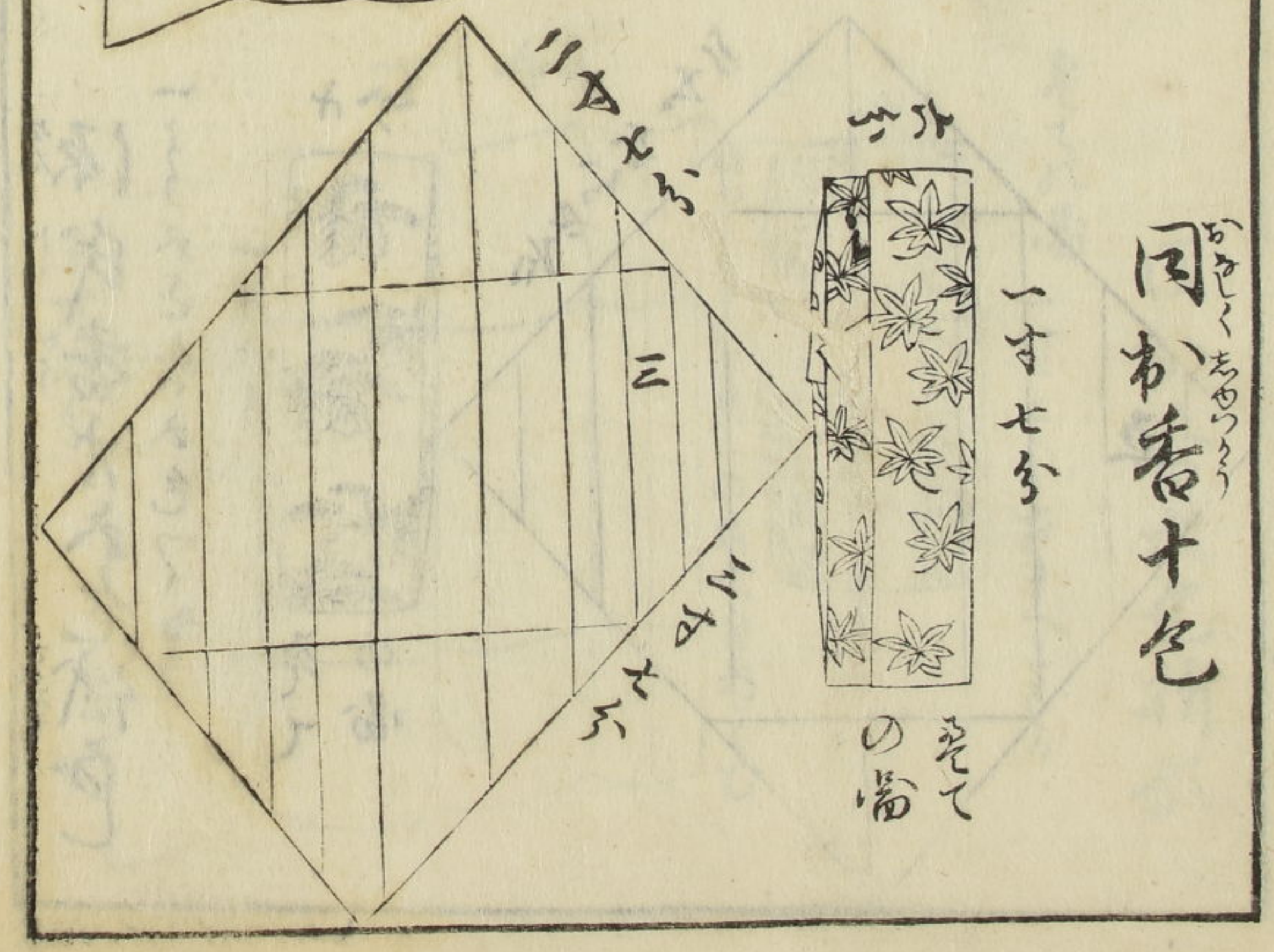
名所香紙四色  
一二三袋各一色なり



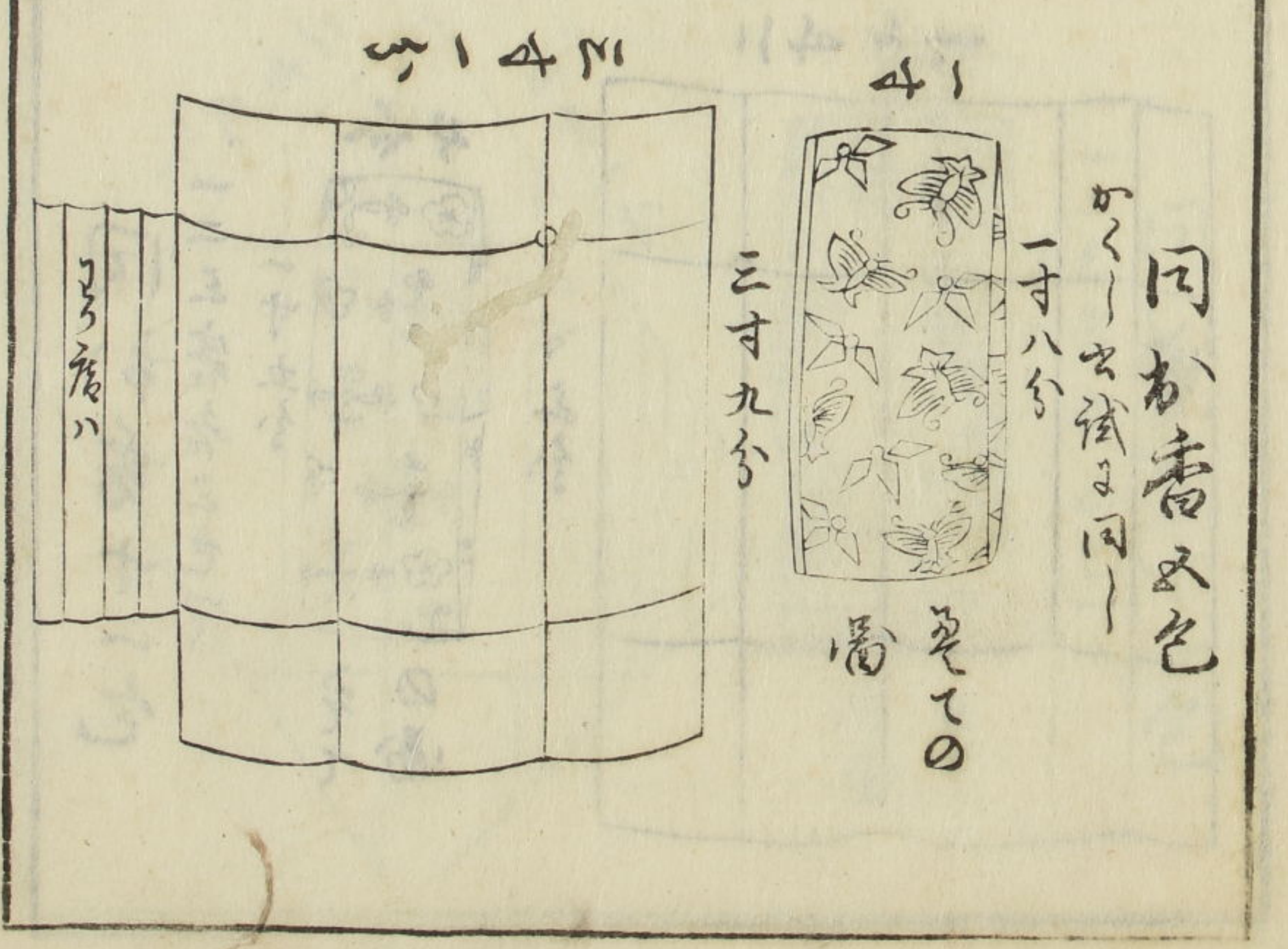
宇治山香紙紙色  
三寸九分  
一寸六分



同布香十色



同布香紙色  
三寸九分  
一寸八分

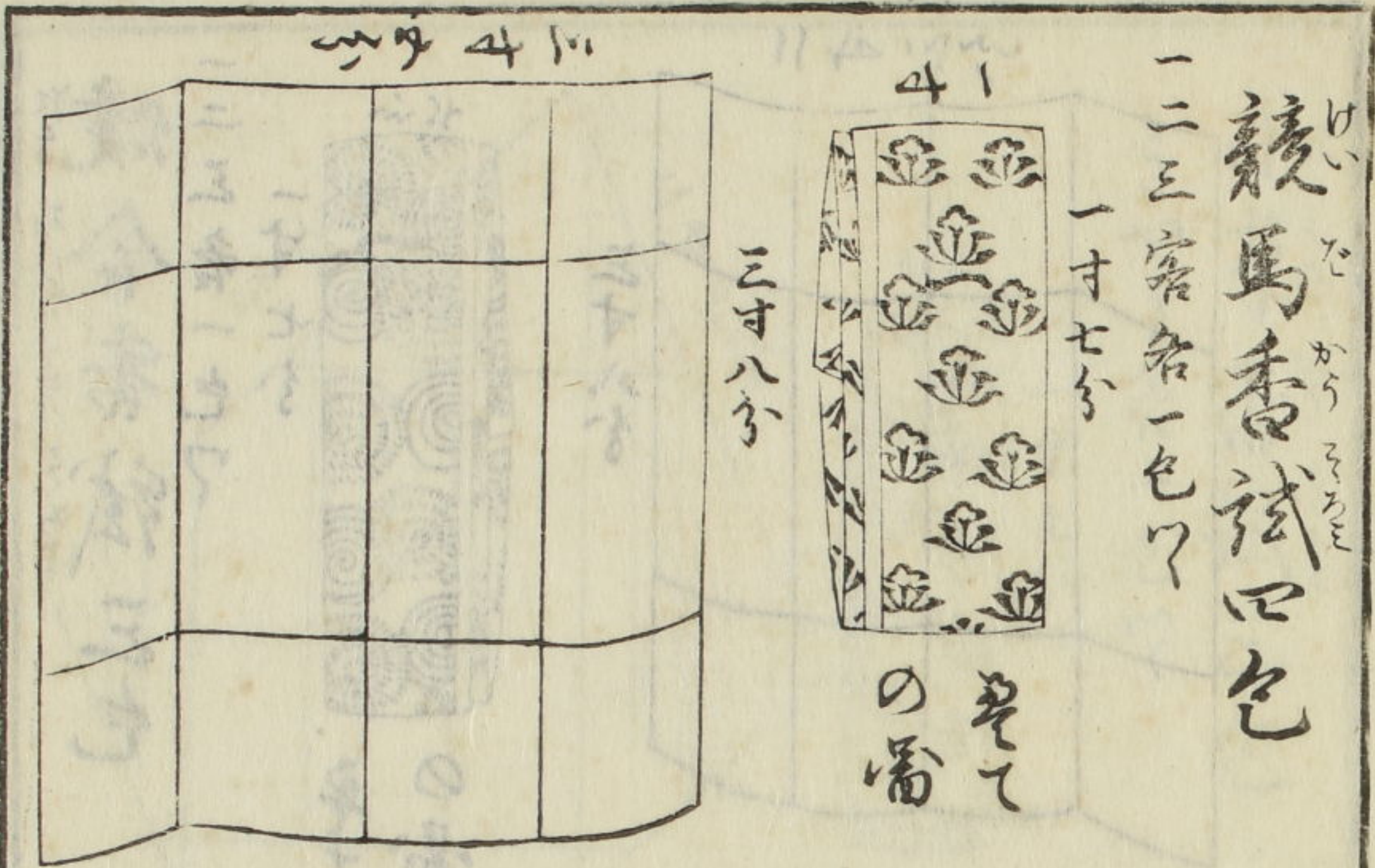


香道紙之線上

十



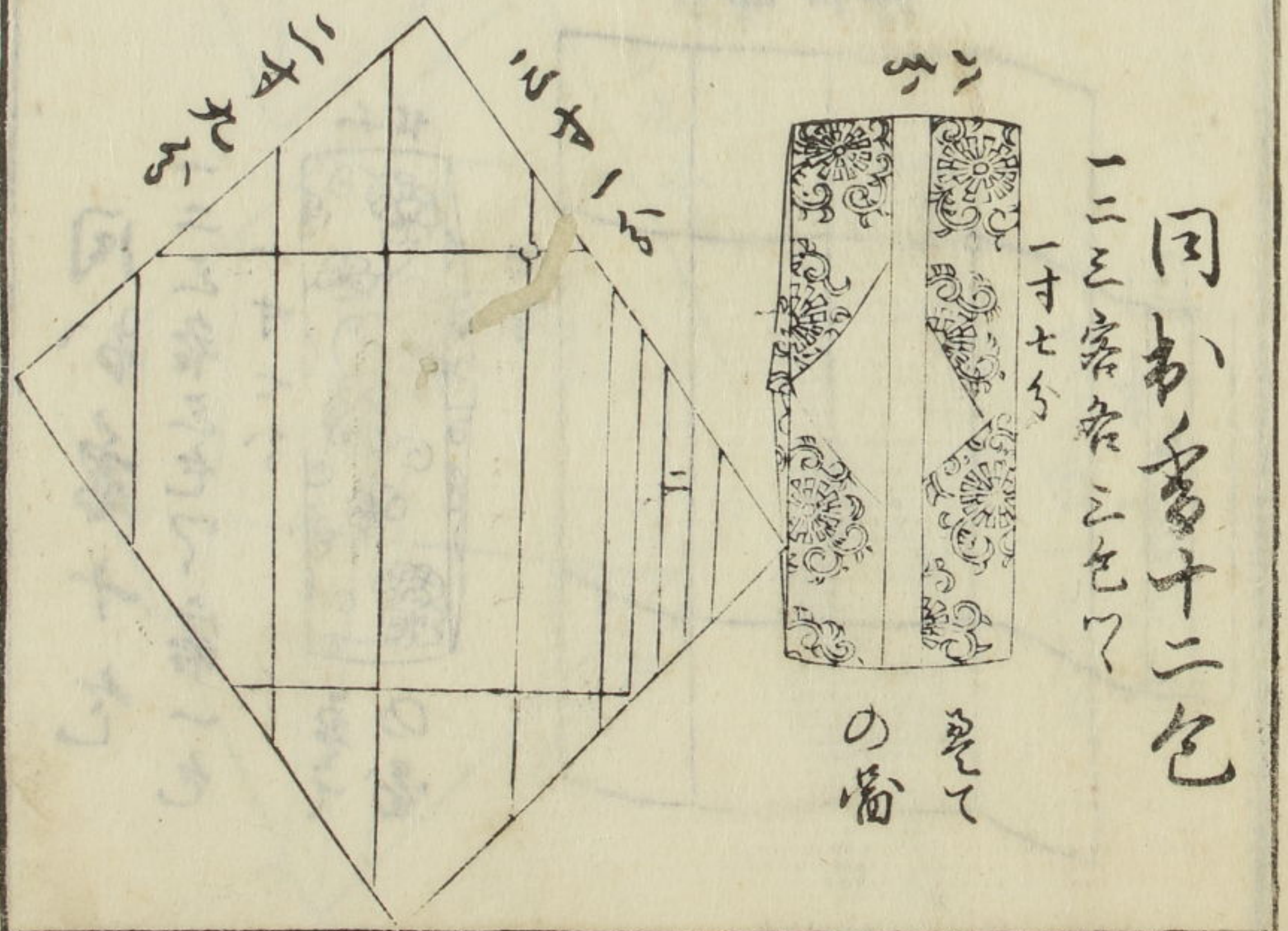
香道漸之線上



競馬香試四色

一二三客各一色マ

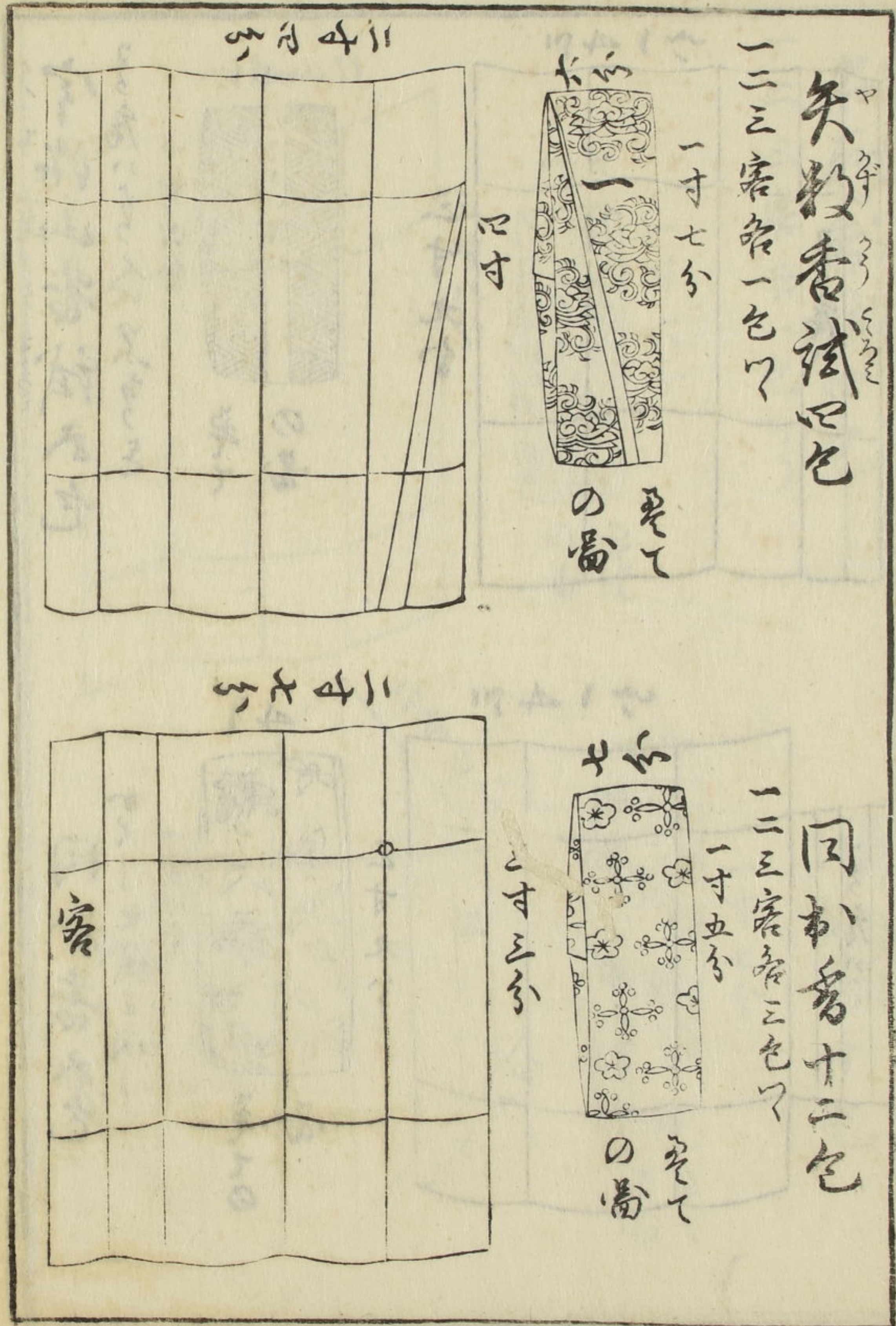
の番



同本香十二色

一二三客各二色マ

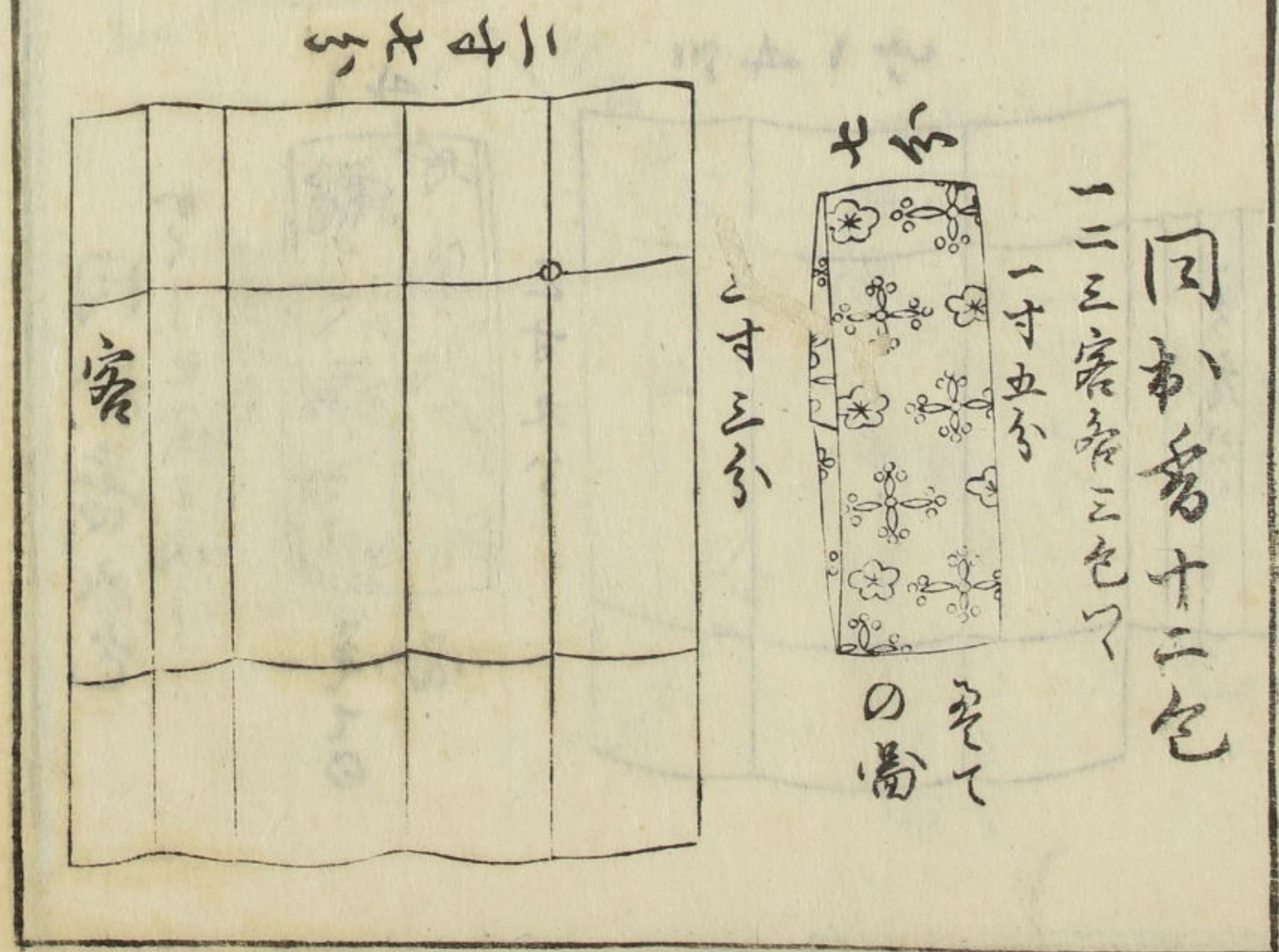
の番



矢野香試四色

一二三客各一色マ

の番



同本香十二色

一二三客各二色マ

の番



小茶香紙三包  
 さやう者一包  
 一寸九分

同か香紙四包  
 さやう者一包  
 一寸八分

二寸五分  
 二寸五分  
 二寸五分  
 二寸五分

の番 是て

の番 是て

焼合香紙三包  
 一二三番一包  
 一寸七分

同か香紙十包  
 一二三番三包  
 一寸七分

三寸八分  
 三寸八分

の番 是て

の番 是て



熱包之式法

摺てれ寸法

幅五寸五分

堅三寸二分

折りけ五分



開てれ寸法

堅七寸

横五寸五分

右熱包糸川流よいたまえよか糸裏金浪れ紙  
表令紙の絹地極彩色よ絵と虫圖一糸織物  
の袋わり様柄れ絵ハとまきくの香乃んと繪づくべし

○十短香ハ松竹梅と画○小鳥香ハ小鳥花よと絵づく

○小茶香ハ桔梗草花よと画○宇治中香ハうららち梅糸と画

○源氏香ハ式部石よと絵と糸○名所香ハ右野山新田よと画

○矢敷香ハ矢弓魔などと画○花月香ハ梅よ月と繪づく

○競る香ハ競るかけりよと画○焼合香ハ紫よ花柄と画

と畫連理香乃時ハ並理れ枝わつ本と畫べし尚流

よハ控板どりわくりがひわり右糸川流世と画

の繪當り中ノ小包も尚流ハ右乃當り

○般並立物寸法と畫式











馬三ぞ一寸計少一寸半

中道幅八分

るみぞ同

長一尺二寸二分計横四寸八分計

右盤の圖かくれおし板れあつさ二分計あ音乃縁  
一寸一分計横幅四寸八分の熱幅なり足付ふもよど  
二つ折三つ折れ盤をよさうなりを時の足なさをよ

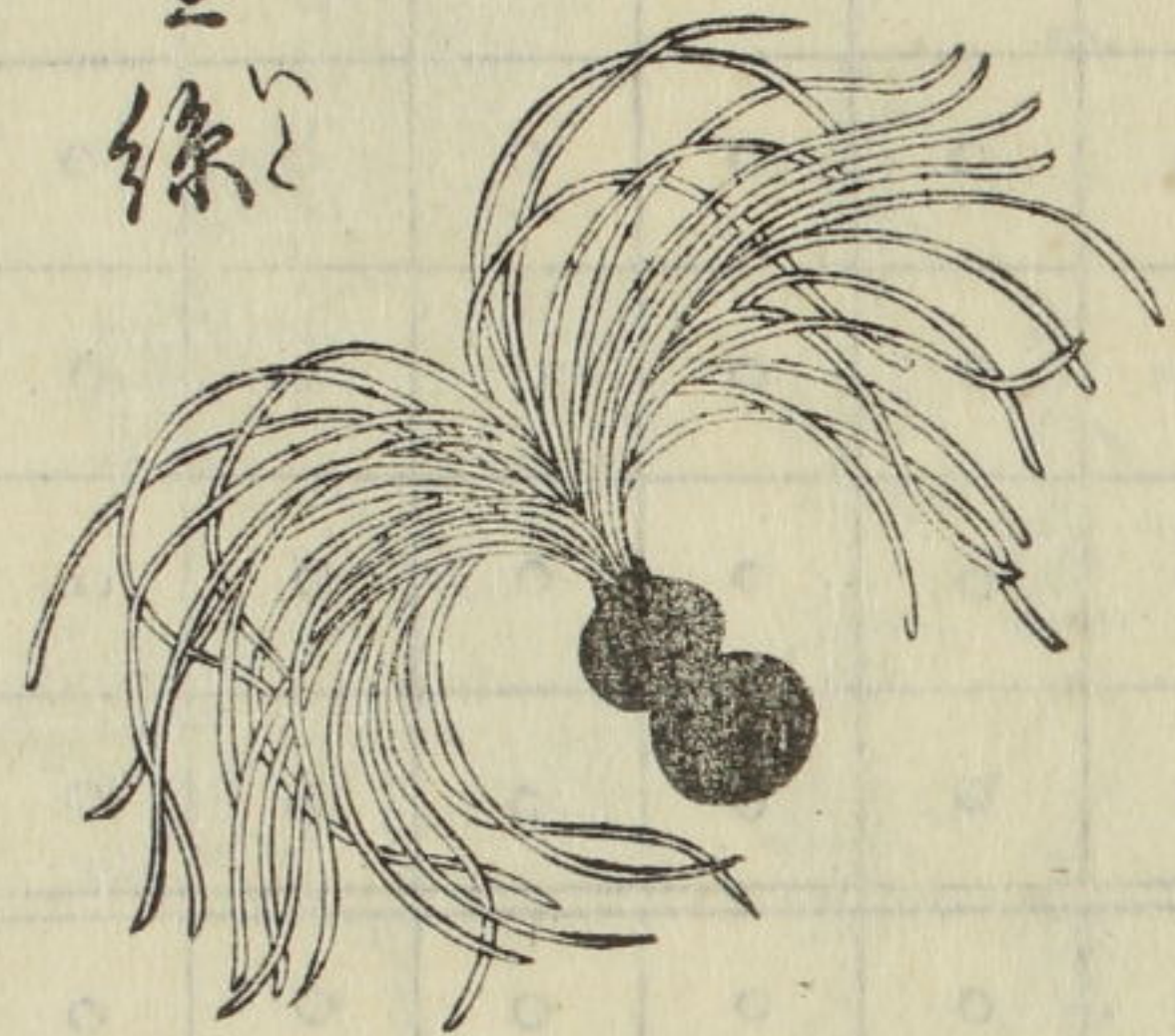
○矢教香盤立物之湯

矢の長六寸五分羽中一寸二分計羽の五  
六分半計よてり

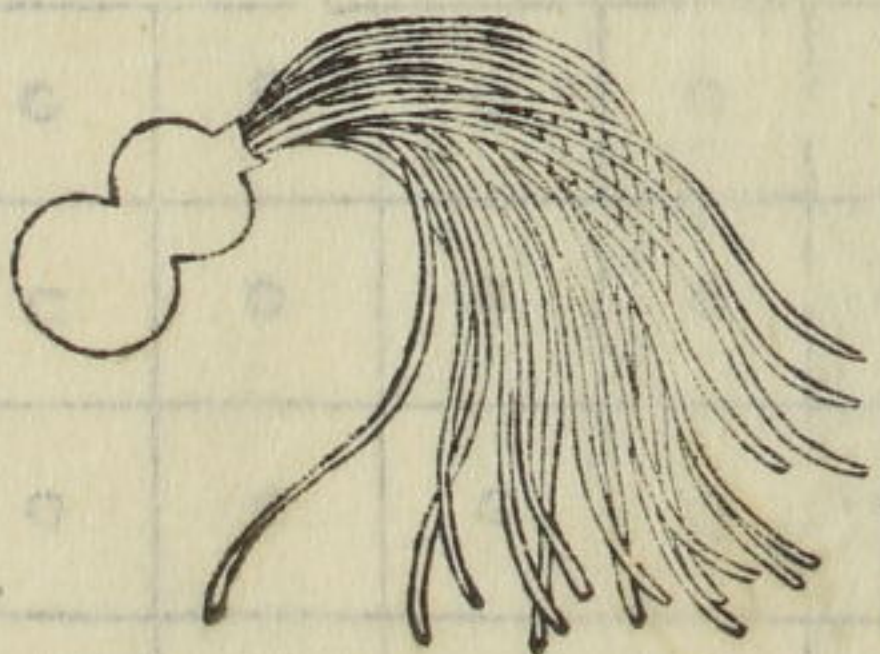
空矢十本

銀線

金線



金魔十  
柄赤一象  
牙と深  
く

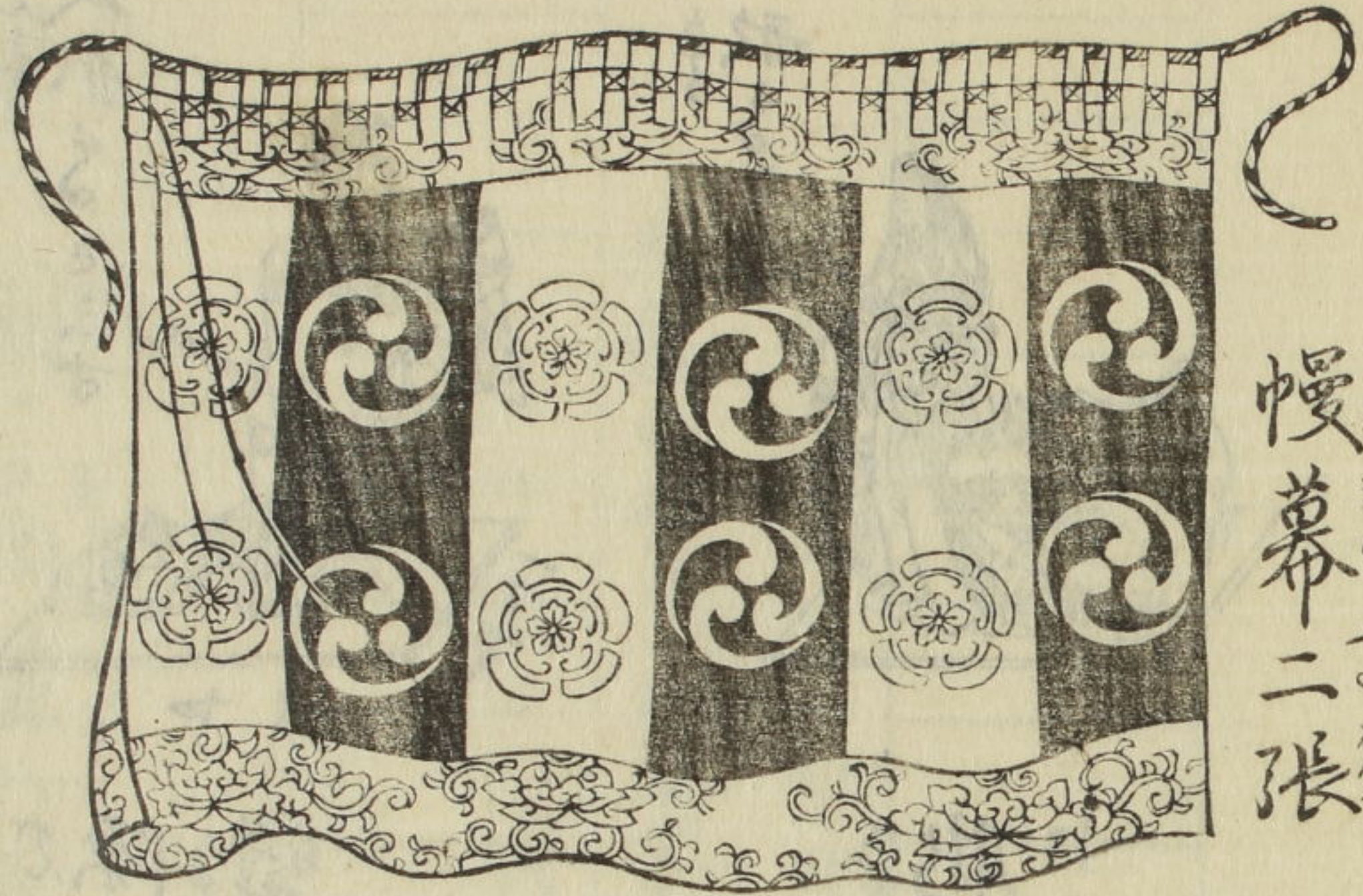


銀魔十  
柄白一象  
牙  
よて



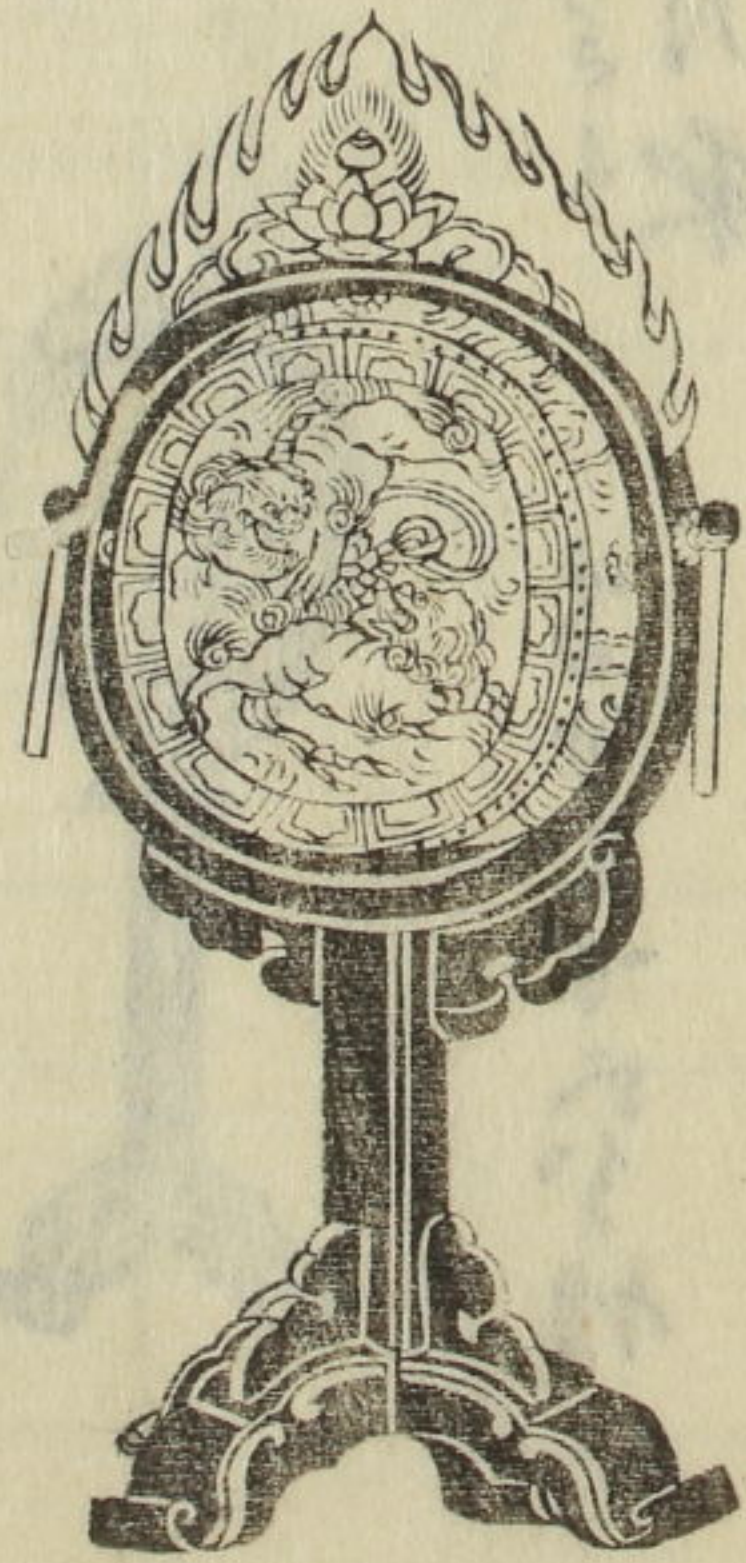






幔幕二張

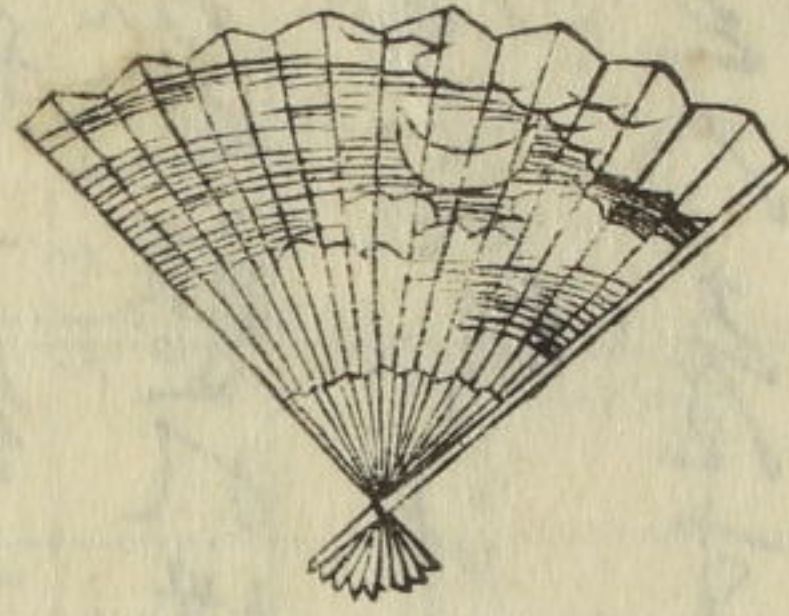
長三寸八分 横一寸五分  
巴の紋 窠れ紋 かく庵一



楽太鼓一ツ

さす竹

扇一柄



長一寸二分



者長八分

日紅糸一枝



かざり糸一枝

楊子寸五分



楊二本

柄の長さ紅糸と同



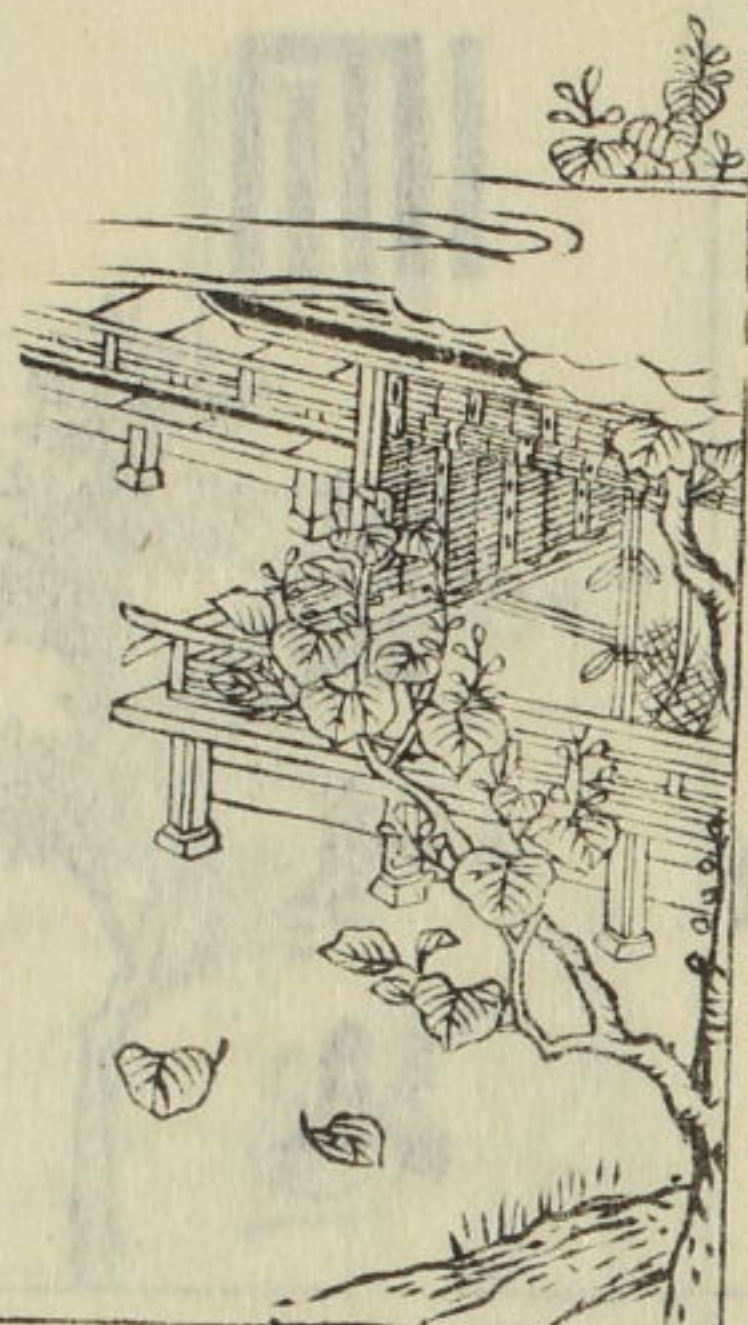




蟬せみ空うつら



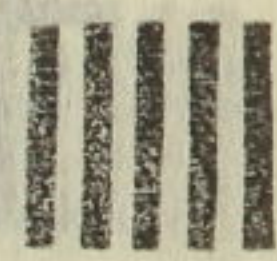
臺たい桐とう



顔がん夕ゆふ



木き蓍し



改正源氏香之圖

五十二

香道漸之線上

二十

場ばき源げん氏し方かたをみぢらしらぬたをた靱こ脈はつ月つき敷しき方かた橋はしり  
 弘こう靱こ盤ばん足あしわり七しち分ぶんぢらしらるた靱こ弘こう靱こ立たて物ものれしぬ  
 盤ばんのの外がわは小ちひさささ巻まとた柄ことくべい二に本ほんれれ橋はし施せのの弓きう慢まん  
 幕まくら成なりてて去さるるべい一い



生蓬



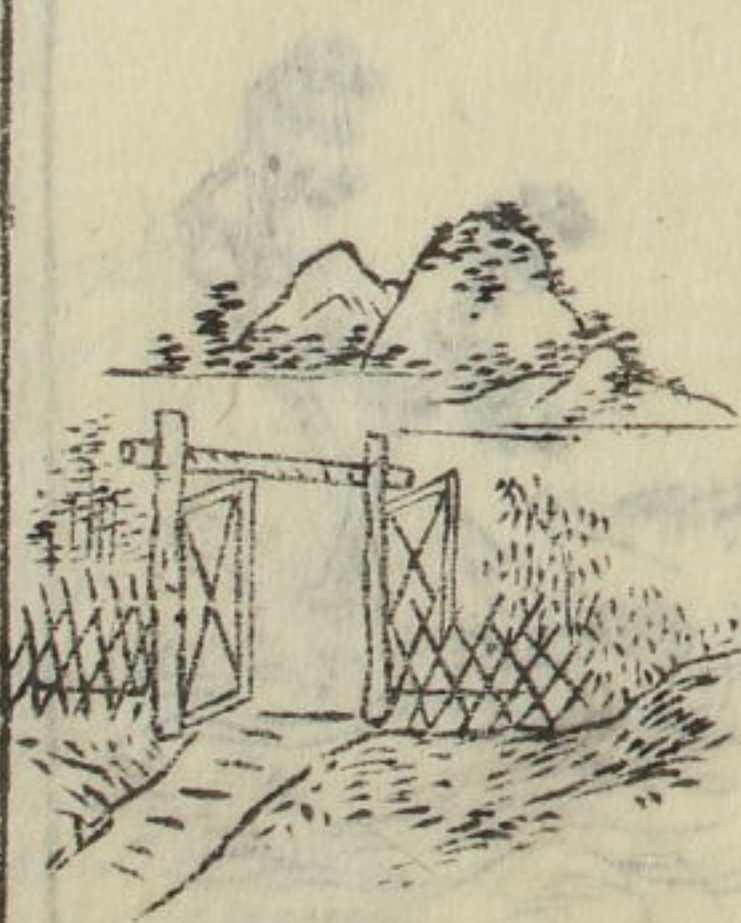
石明



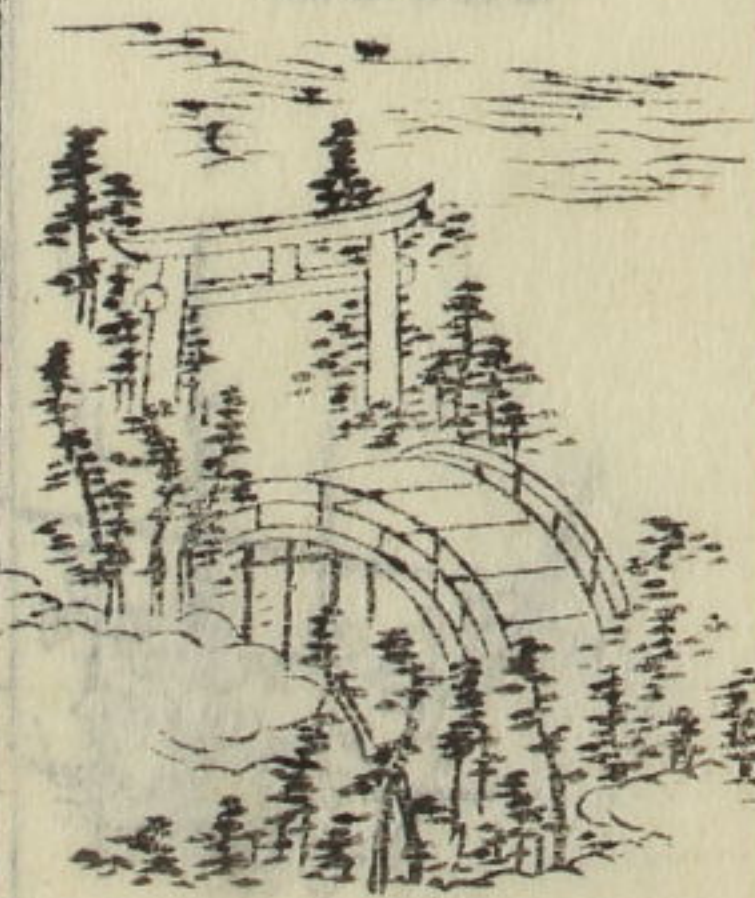
里花



屋中



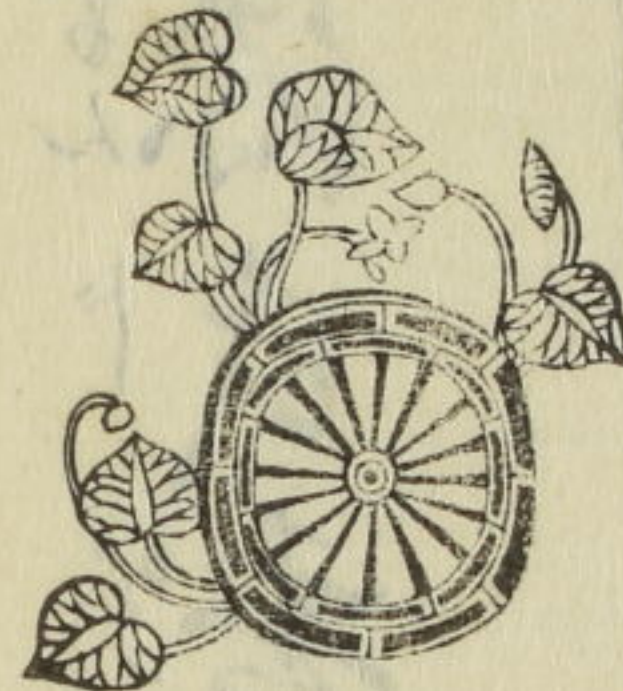
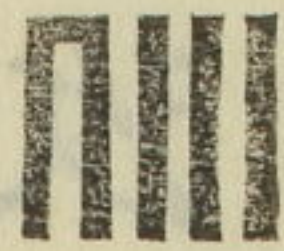
溪源



廣須



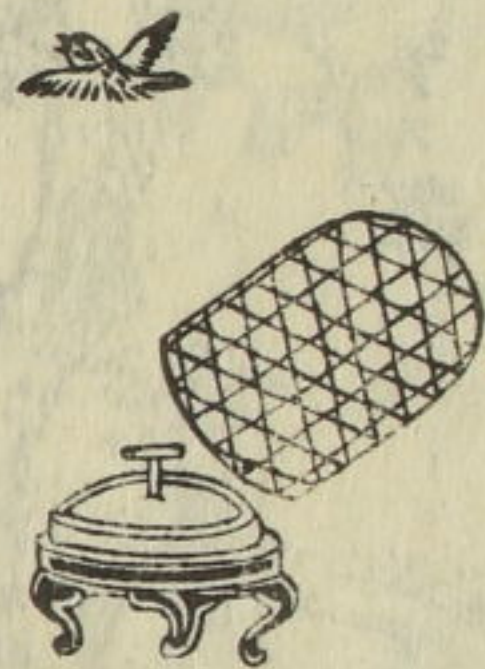
葵



紫系紅



紫若



棟









富花






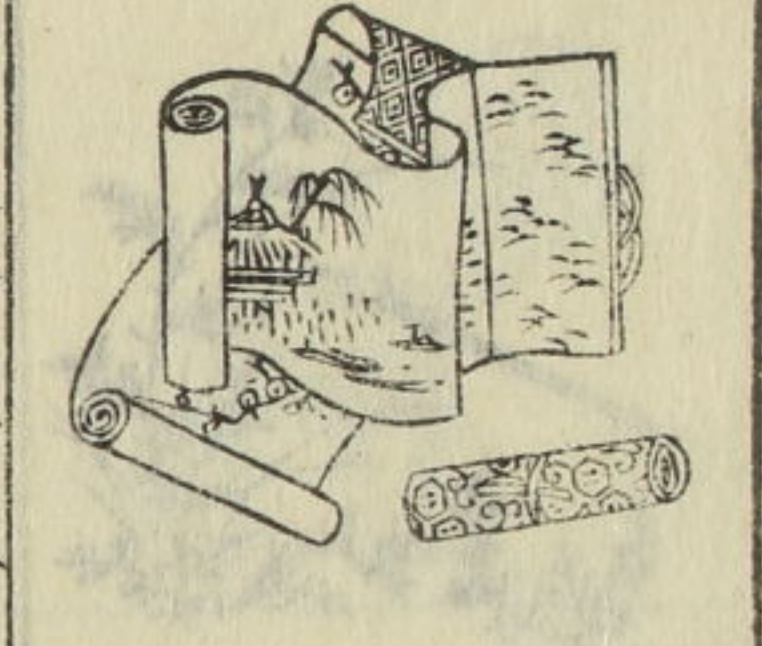



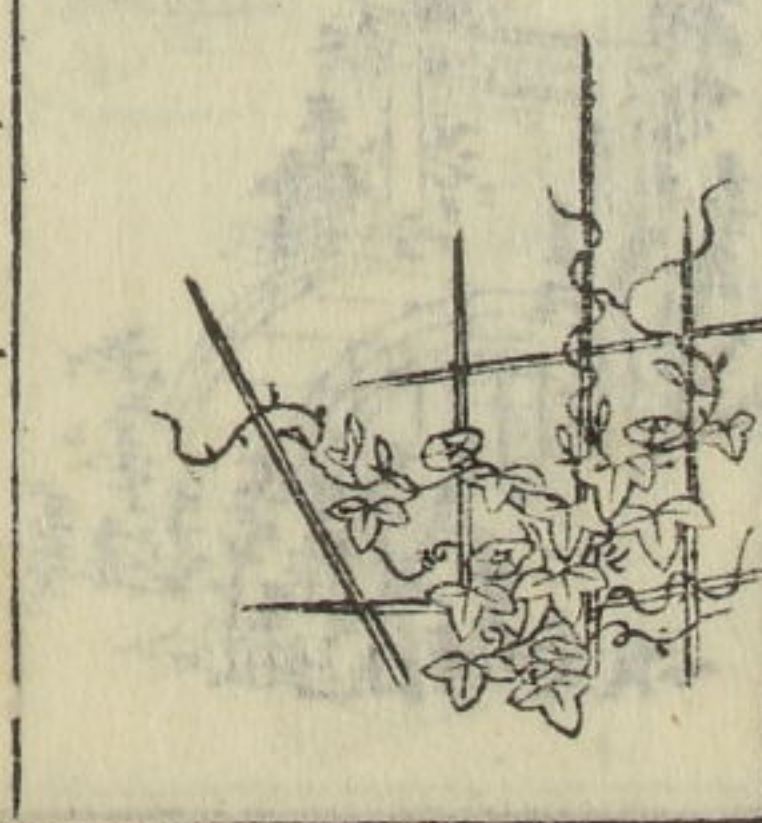




花橋末





<p>火の篝 <small>かまど</small></p>  	<p>螢 <small>あき</small></p>  	<p>春の初 <small>はる</small></p>  
<p>分の野 <small>の</small></p>  	<p>麦の穂 <small>こ</small></p>  	<p>蝶と胡 <small>こ</small></p>  

<p>女のし <small>か</small></p>  	<p>雲の霞 <small>う</small></p>  	<p>合の繪 <small>え</small></p>  
<p>鳥の玉 <small>たま</small></p>  	<p>顔の物 <small>もの</small></p>  	<p>風を松 <small>まつ</small></p>  



霧夕



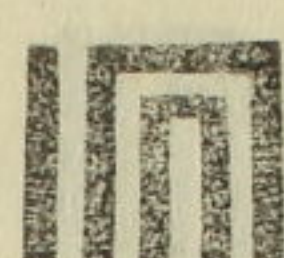
筆横



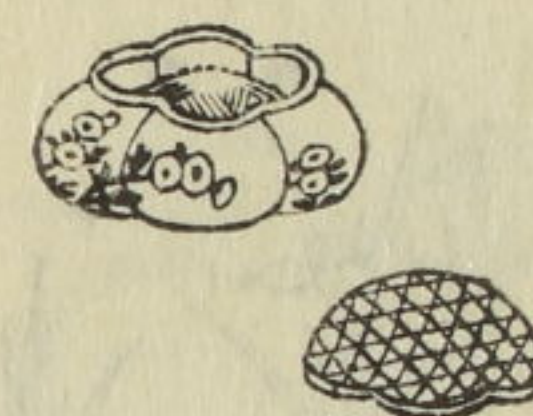
下菜若



葉裏花



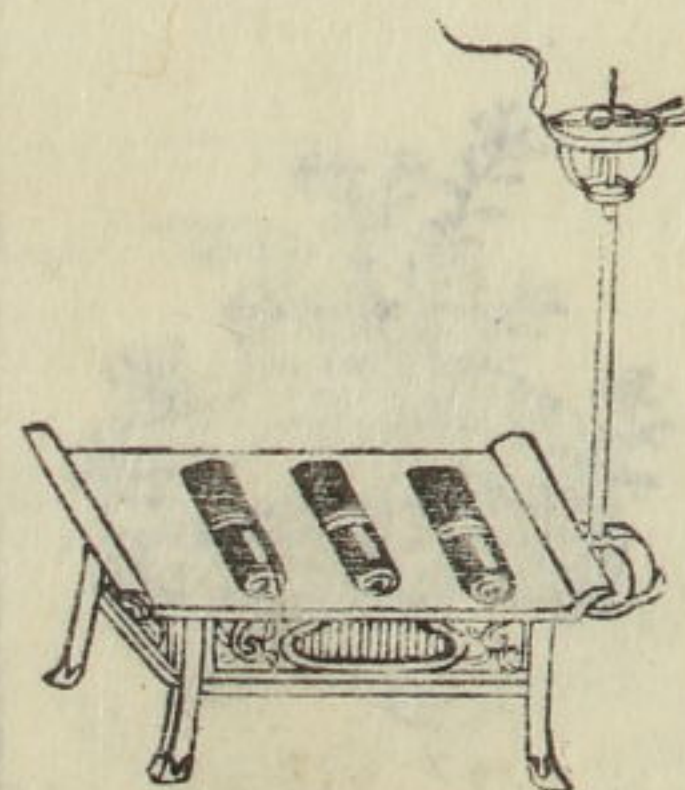
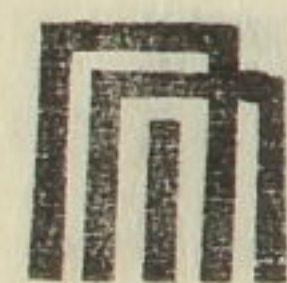
櫃拵



幸行



法淨



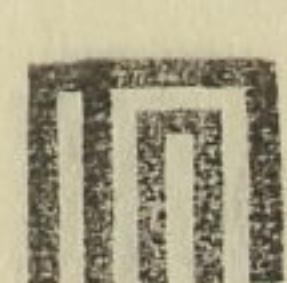
虫鈴



木柏



上菜若



枝梅



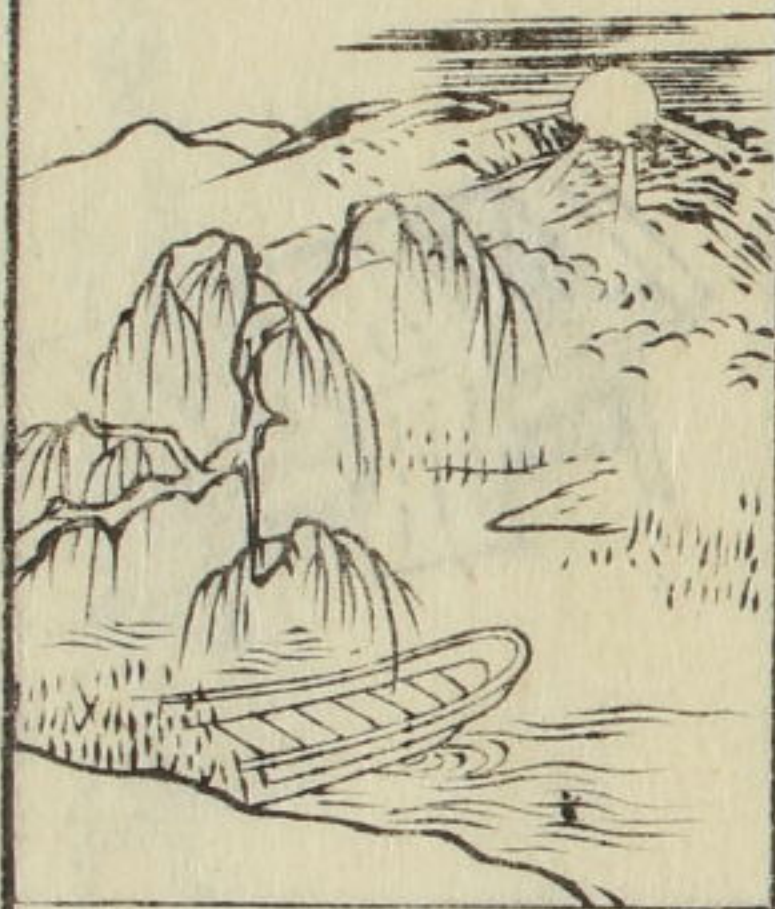
蘭





香道 游之 係上

船字 浮



木生 穿



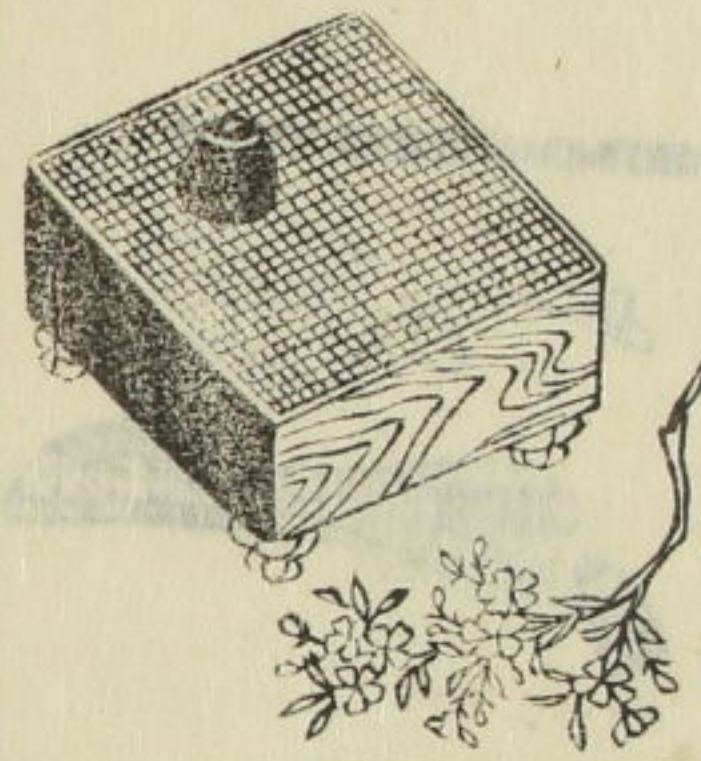
角 總



姫 橋



川 竹



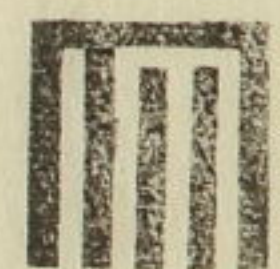
幻



鈴 蜻



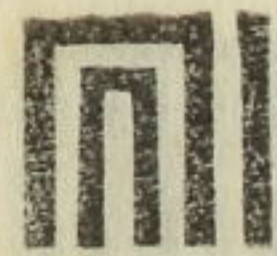
屋 東



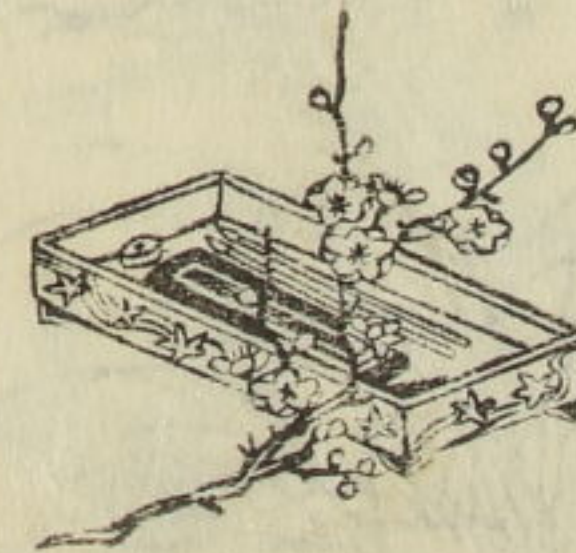
蕨 早



木 椎



梅 紅



交 旬



二十四



香道漱之線と巻終

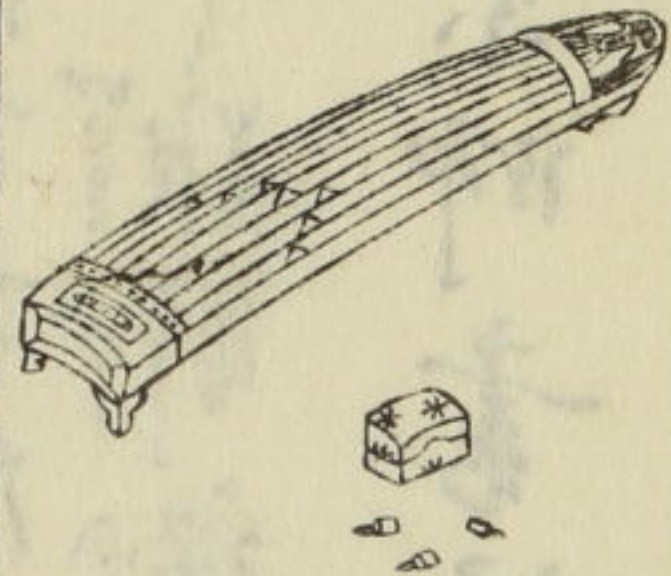
香道漱之線上

二十五

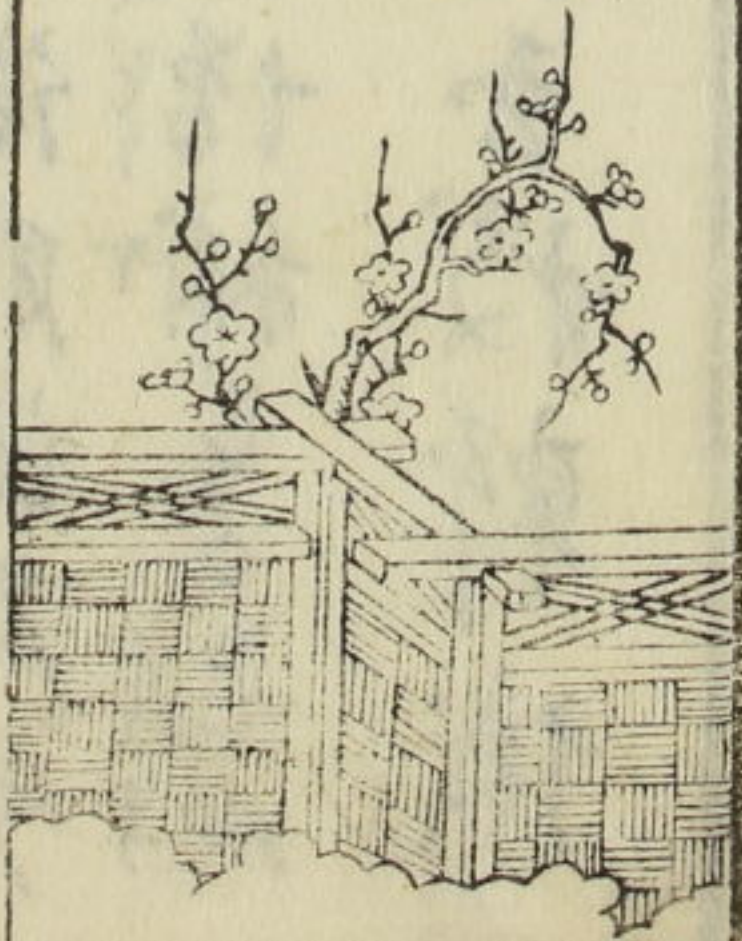
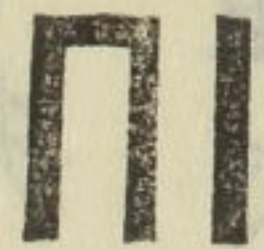
霧の花尾



音孫琴



梅家の隣



林樹の緑



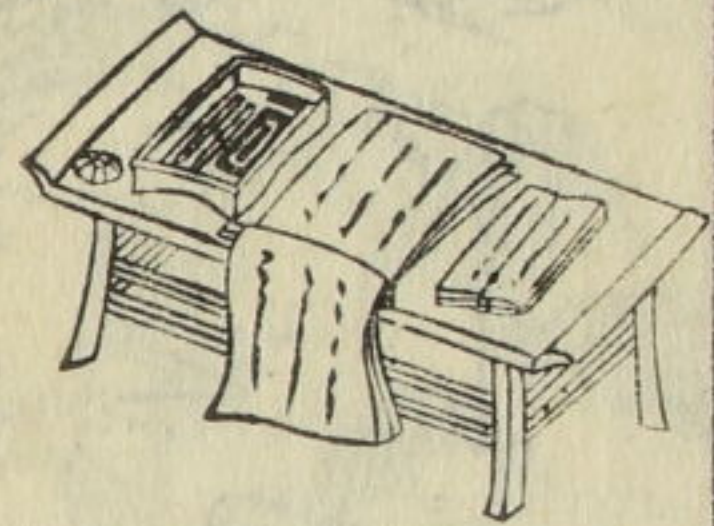
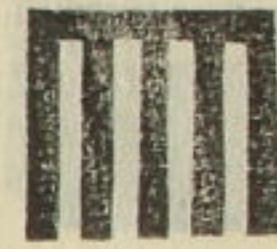
吾峯故



三炷香之圖

五

習之



橋浮後





香道秘傳書

全部二冊

板行本

右の書は古來香道宗匠の秘傳の秘傳として  
香乃の真義秘傳を記し、禮法とその入道

書なり

同改正増補

二冊

奥の志は二冊

通判行

香道秘傳の古書たるより傳寫の誤脱漏不少  
又虫面より新解秘傳と考増補を考也

京師書坊

植村玉枝新藏



